

**資料（目次）**  
**（学生の確保の見通し等を記載した書類）**

資料 1	横浜国立大学「都市科学部」（仮称）設置に関するアンケート調査【高校生版】	・ 1
資料 2	調査票様式【高校生版】	・ 1 7
資料 3	設置構想資料	・ 1 9
資料 4	日本留学アワーズ受賞（表彰状）	・ 2 1
資料 5	出身高校地域別志願者数	・ 2 5
資料 6	横浜国立大学「都市科学部」（仮称）設置に関するアンケート調査【企業版】	・ 2 9
資料 7	調査票様式【企業版】	・ 4 9
資料 8	企業・地方自治体等からのヒアリング社会ニーズ調査	・ 5 3
資料 9	要望書（神奈川県、YGEP）	・ 5 7

**資料 1 横浜国立大学「都市科学部」（仮称）設置に  
関するアンケート調査【高校生版】**

---

---

横浜国立大学「都市科学部」(仮称)  
設置に関するアンケート調査  
【高校生対象調査】  
結果報告書

---

---

平成28年1月  
株式会社 進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

# 高校生対象 調査概要

## 1. 調査目的

2017年4月開設予定の「横浜国立大学 都市科学部」の新設構想に関して、高校生のニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		神奈川県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校)	3,925 (30校)
	回収数 (回収率)	2,637 (24校) (67.2%)
調査時期		2015年10月20日(火)～2015年12月1日(火)
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

高校生対象調査
・性別 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・興味のある学問系統 ・学部・各学科の特色に対する魅力度 ・都市科学部への受験意向 ・都市科学部への入学意向

## 高校生対象 調査結果まとめ



## 高校生対象 調査結果まとめ

---

### 回答者の属性

※ 本調査は、横浜国立大学の新学部である「都市科学部」に対する需要を確認するための調査として設計したため、横浜国立大学の主な学生募集エリアである神奈川県に所在する高校の高校2年生（設置年度に入学対象の学年）に調査を実施し、2,637人から回答を得た。

- 回答者の性別は「男性」が58.9%、「女性」が39.7%。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が72.8%、「私立」が27.2%。
- 回答者の在籍高校所在地は、横浜国立大学が所在する「神奈川県」が100.0%。
- 回答者の所属クラスは、「理系クラス(理系コース)」が43.3%で最も多い。

### 高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国公立大学に進学」が69.8%で最も高い。次いで「私立大学に進学」が60.3%。国公立大学への進学志望者が多いことから、新学部が今後ターゲットとする対象に調査を実施できていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統は、新学部と関連のある「工学」(30.8%)が最も高い。次いで、「理学」(29.9%)、「経済・経営・商学」(21.8%)、「文学」(21.0%)が高い。

## 高校生対象 調査結果まとめ

### 学部・各学科の特色に対する魅力度

- 「都市科学部の特色」に対する魅力度(※)は、全ての特色で5割を超える。
- 「都市科学部の特色」のうち、「年間を4学期に区分したカリキュラム構成で、在学途中で半年から1年間、国内や海外の研究機関や企業で研修できる。」に対する魅力度は80.0%で「都市科学部の特色」3項目中最も高い。
- 「学科ごとの特色」に対する魅力度(※)は、全ての特色で6割を超える。
- 「学科ごとの特色」のうち、「環境リスク共生学科の特色」である「豊かさとリスクのバランスがとれた持続可能な社会を実現するため、総合的視点で自然環境や人工環境、社会環境のリスクを学ぶ。」に対する魅力度は67.0%で、「学科ごとの特色」4項目中最も高い。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

### 都市科学部への受験意向・入学意向

- 都市科学部を「受験したいと思う」と答えた人は19.5% (514人)である。
- 都市科学部を「受験したいと思う」と答えた514人のうち「入学したいと思う」と答えた人は、「建築学科」40.7% (209人)、「都市基盤学科」12.1% (62人)、「環境リスク共生学科」15.6% (80人)、「都市共生学科」20.8% (107人)で、予定されている入学定員(「建築学科」70人、「都市基盤学科」40人、「環境リスク共生学科」50人、「都市共生学科」60人)を上回っている。

## 高校生対象 調査結果まとめ

### 受験意向別入学意向 属性別傾向 (性別／所属クラス別)

#### ◇性別

- 建築学科を「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と答えた人(以降下線部を「入学意向者」と表す)は「女性」6.3% (66人)より「男性」9.0% (140人)の方が2.7ポイント高い。
- 都市基盤学科入学意向者は「女性」0.9% (9人)より「男性」3.4% (53人)の方が2.5ポイント高い。
- 環境リスク共生学科入学意向者は「女性」1.6% (17人)より「男性」3.9% (61人)の方が2.3ポイント高い。
- 都市共生学科入学意向者は「男性」2.7% (42人)より「女性」5.8% (61人)の方が3.1ポイント高い。

#### ◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」在籍者からの入学意向者
  - 建築学科: 11.6% (132人)
  - 都市基盤学科: 3.1% (35人)
  - 環境リスク共生学科: 4.3% (49人)
  - 都市共生学科: 2.9% (33人)
- 「文系クラス(文系コース)」在籍者からの入学意向者
  - 建築学科: 2.6% (16人)
  - 都市基盤学科: 1.6% (10人)
  - 環境リスク共生学科: 1.8% (11人)
  - 都市共生学科: 6.2% (38人)

## 高校生対象 調査結果まとめ

---

### 受験意向別入学意向 属性別傾向(興味学問系統別)

#### ◇興味学問系統別

##### •「工学」関心者からの入学意向者

建築学科： 16.9% (137人)

都市基盤学科： 4.6% (37人)

環境リスク共生学科： 3.7% (30人)

都市共生学科： 2.1% (17人)

##### •「社会学」関心者からの入学意向者

建築学科： 3.2% (10人)

都市基盤学科： 2.9% (9人)

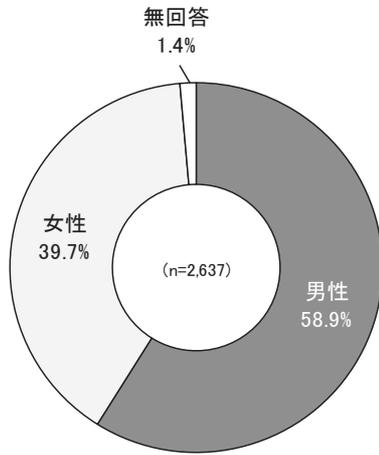
環境リスク共生学科： 1.9% (6人)

都市共生学科： 13.6% (42人)

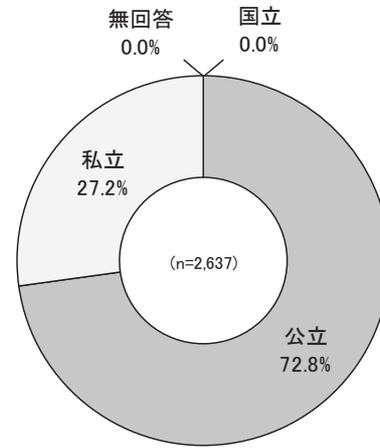
## 高校生対象 調査結果

## 回答者の属性(性別/高校種別/高校所在地/所属クラス)

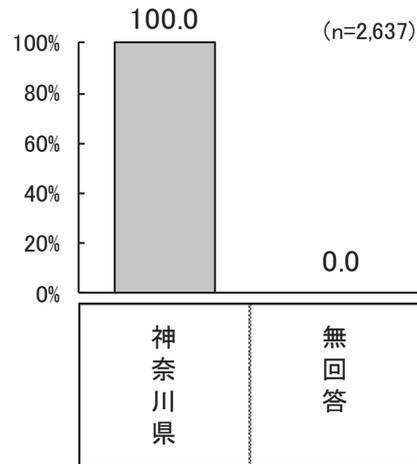
### ■性別



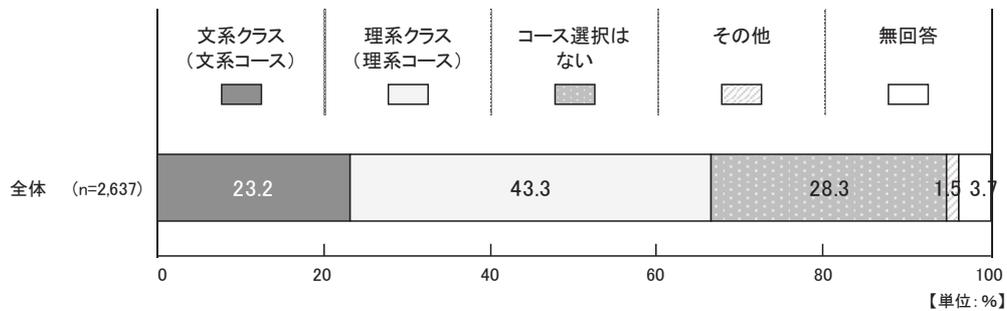
### ■高校種別



### ■高校所在地



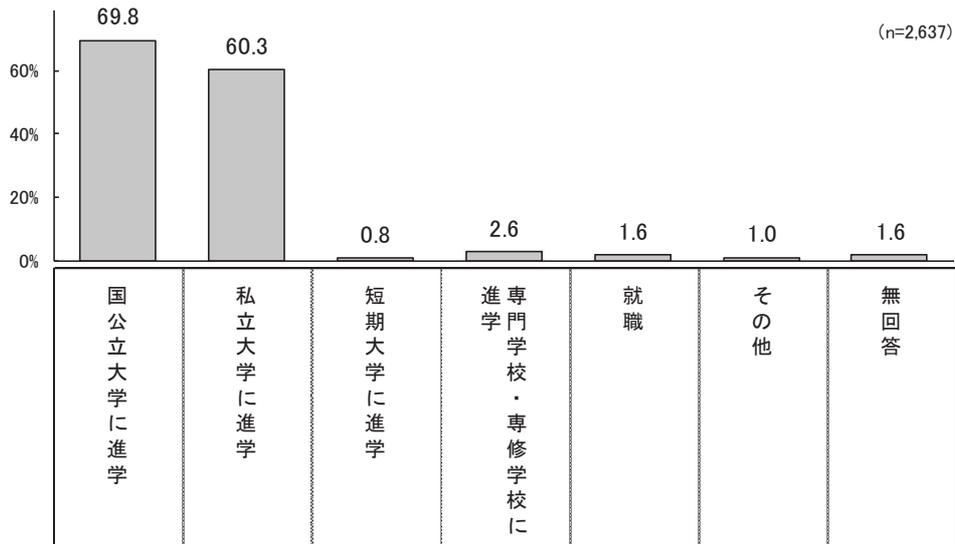
### ■所属クラス



# 高校卒業後の希望進路／興味のある学問系統

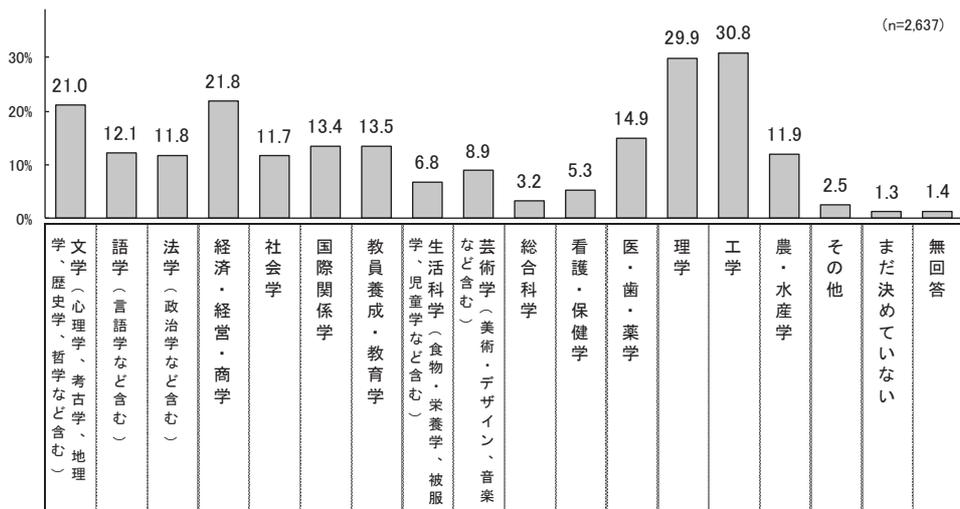
## ■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。  
以下の項目から、あてはまるものすべてをお選びください。(いくつでも)



## ■興味のある学問系統

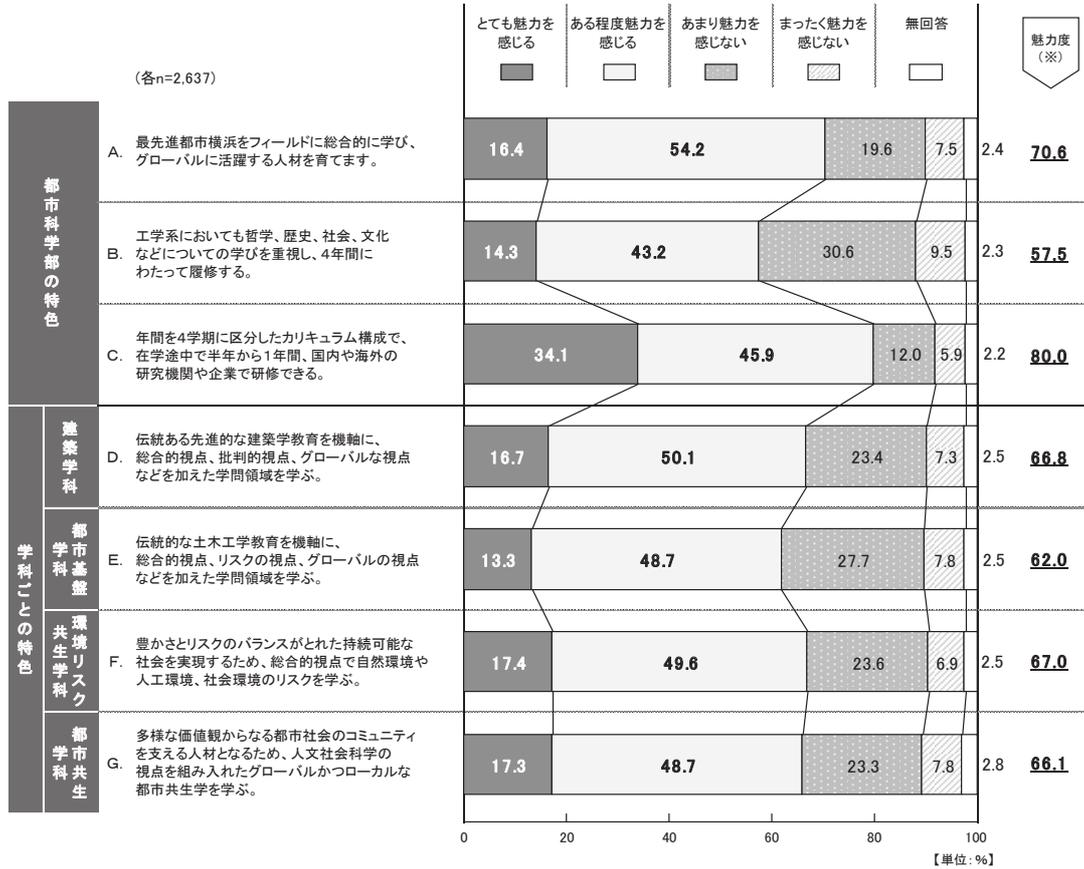
Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。  
以下の項目から、興味のある学問系統すべてをお選びください。(いくつでも)  
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



# 学部・各学科の特色に対する魅力度

## ■学部・各学科の特色に対する魅力度

Q3. 横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の各学科には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまるものを1つだけ)



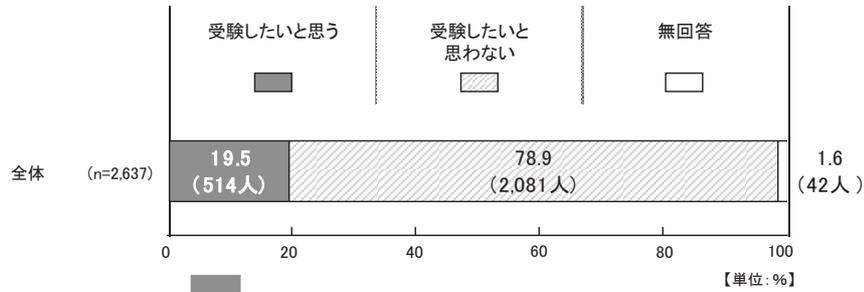
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

# 都市科学部への受験意向／入学意向

## ■都市科学部への受験意向

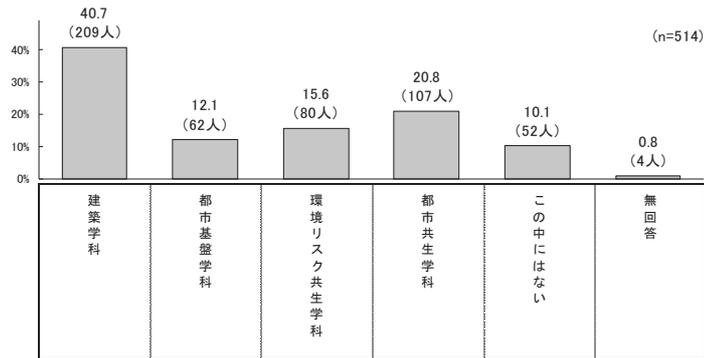
Q4. あなたは、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。  
あなたの気持ちに一番近いもの1つをお選びください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた514人のみ抽出

## ■都市科学部への入学意向

Q5. あなたは、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。  
あなたの気持ちに一番近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

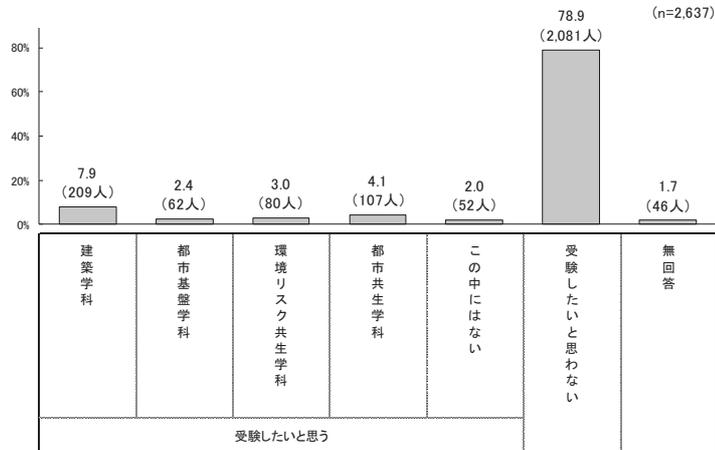


※ Q4で「受験したいと思う」と答えた514人の回答



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を  
かけあわせて集計(母数は全回答者)

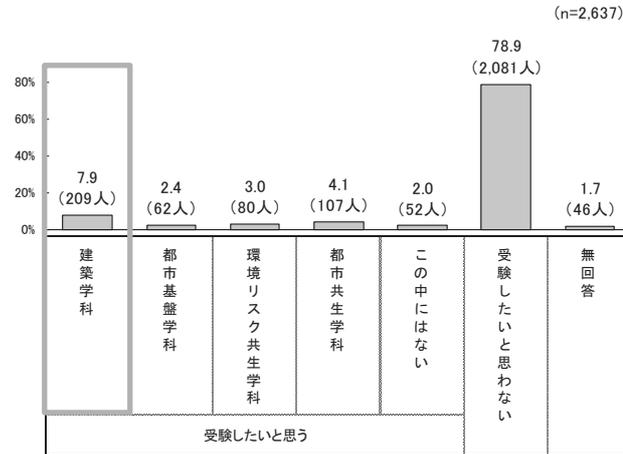
## ■都市科学部への受験意向別入学意向



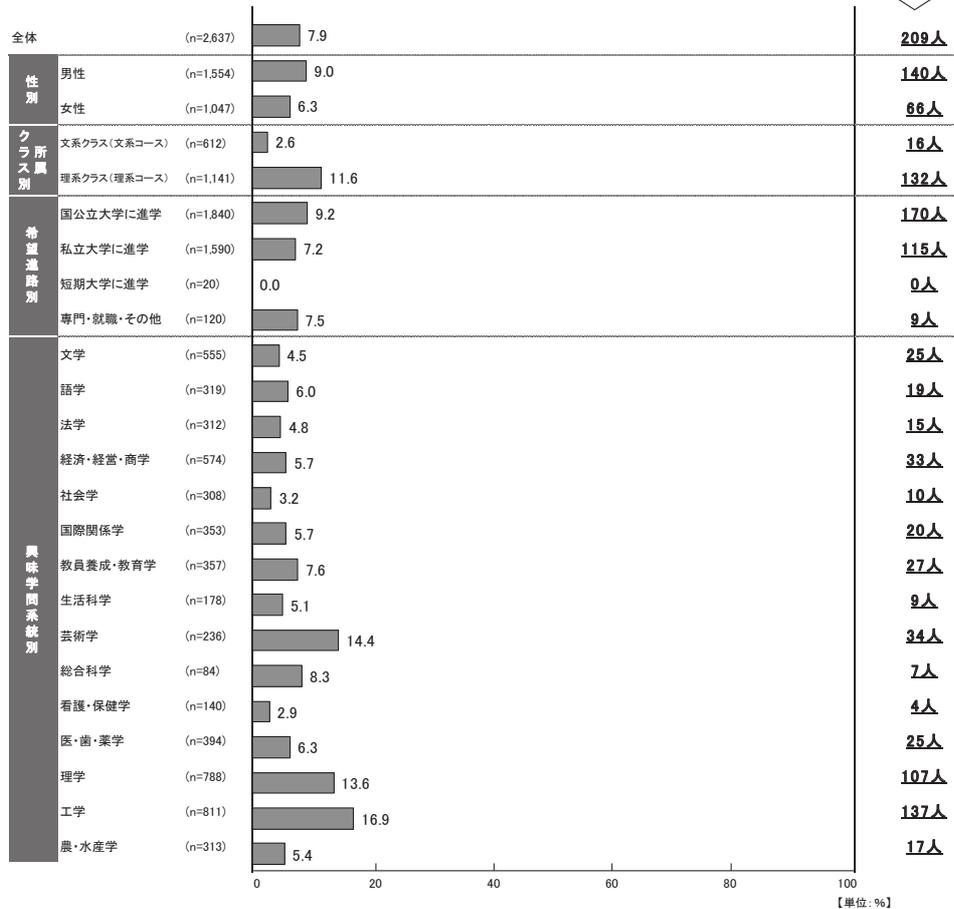
## <属性別>

### ■建築学科への受験意向別入学意向

Q5. あなたは、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。  
あなたの気持ちに一番近いもの1つをお選びください。(1つだけ)



## <属性別>

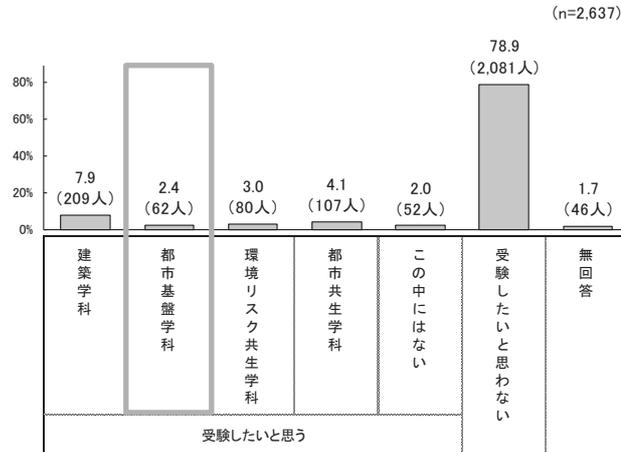


※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

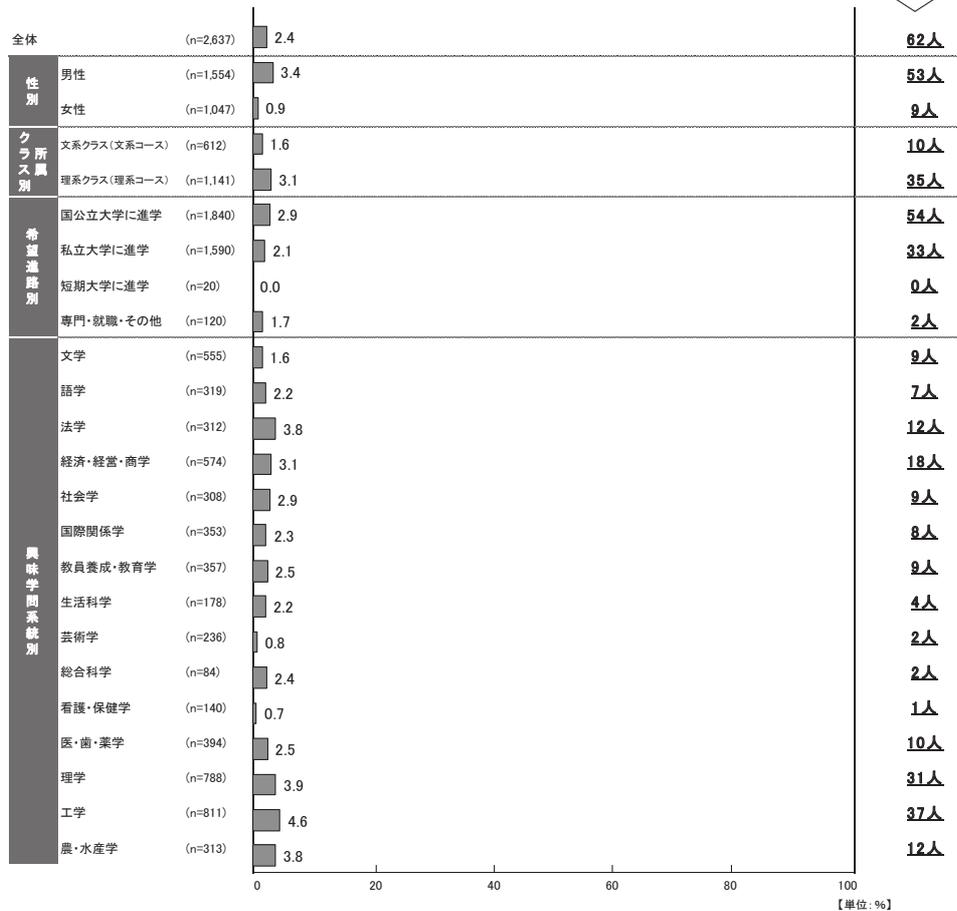
## <属性別>

### ■都市基盤学科への受験意向別入学意向

Q5. あなたは、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。  
あなたの気持ちに一番近いもの1つをお選びください。(1つだけ)



## <属性別>

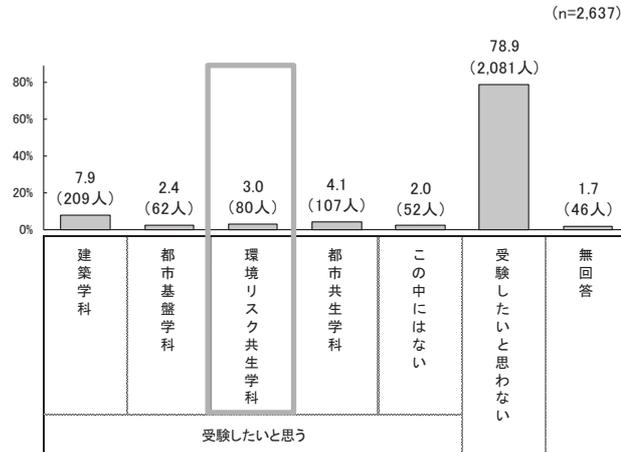


※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

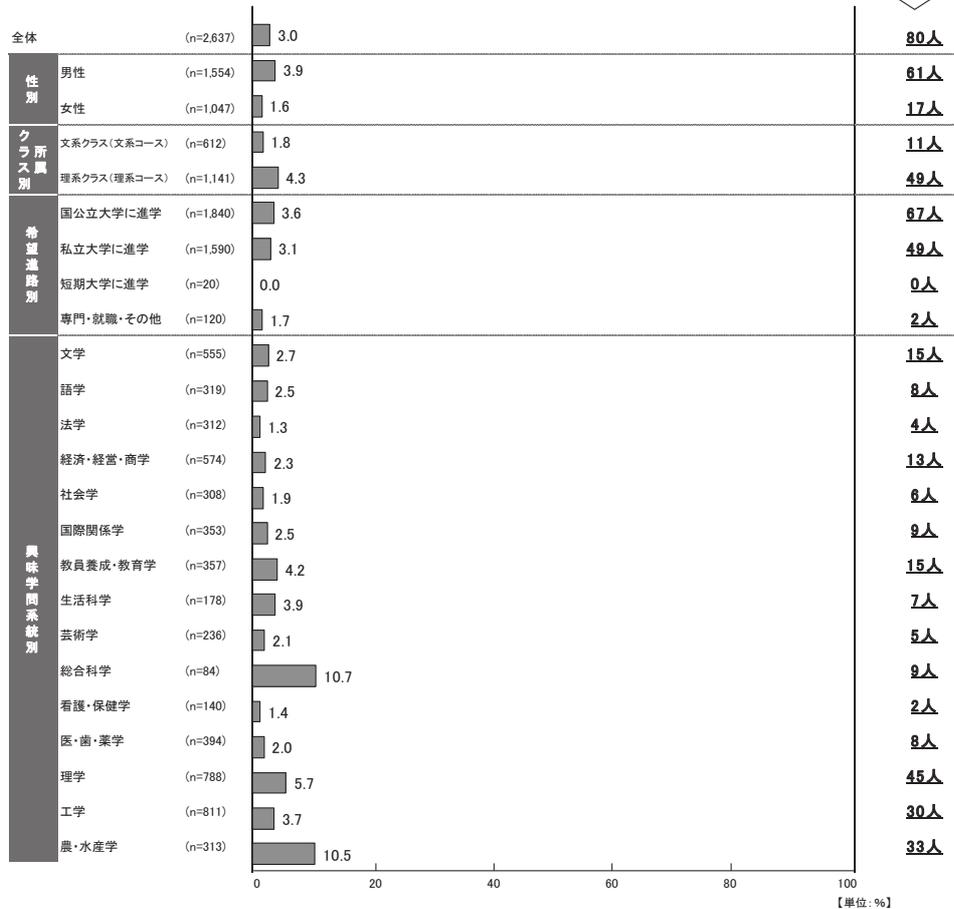
## <属性別>

### ■環境リスク共生学科への受験意向別入学意向

Q5. あなたは、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。  
あなたの気持ちに一番近いもの1つをお選びください。(1つだけ)



## <属性別>

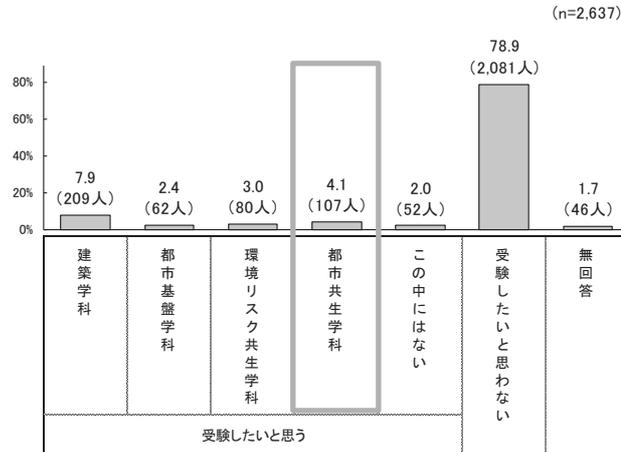


※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数  
15

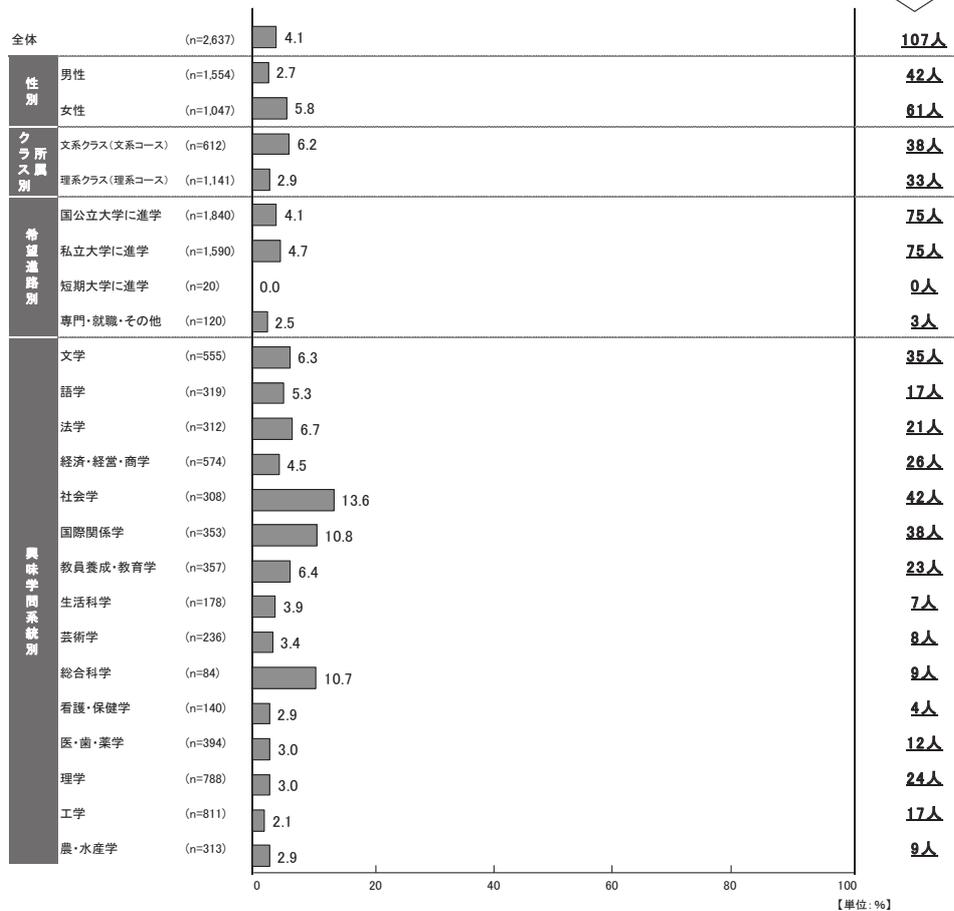
## <属性別>

### ■都市共生学科への受験意向別入学意向

Q5. あなたは、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。  
あなたの気持ちに一番近いもの1つをお選びください。(1つだけ)



## <属性別>



※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数  
16

## 資料2 調査票様式【高校生版】



# 高校生対象 調査票

15016

◆横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)についてお聞きます。

横浜国立大学では、新しく「都市科学部」(仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q3. 横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の各学科には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたほどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまるものを1つだけ)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
	例. ○○である。	→ <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
都市科学部の特色	A. 最先進都市横浜をフィールドに総合的に学び、グローバルに活躍する人材を育てます。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	B. 工学系においても哲学、歴史、社会、文化などについての学びを重視し、4年間にわたって履修する。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	C. 年間に4学期に区分したカリキュラム構成で、在学途中で半年から1年間、国内や海外の研究機関や企業で研修できる。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学科ごとの特色	学建築 D. 伝統ある先進的な建築学教育を機軸に、総合的視点、批判的視点、グローバルな視点などを加えた学問領域を学ぶ。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	都市基盤 E. 伝統的な土木工学教育を機軸に、総合的視点、リスクの視点、グローバルの視点などを加えた学問領域を学ぶ。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	環境リスク F. 豊かさやリスクのバランスがとれた持続可能な社会を実現するため、総合的視点で自然環境や人工環境、社会環境のリスクを学ぶ。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	都市共生 G. 多様な価値観からなる都市社会のコミュニティを支える人材となるため、人文社会科学の視点を組み入れたグローバルかつローカルな都市共生学を学ぶ。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q4. あなたは、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに一番近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

受験したいと思う  受験したいと思わない

Q5. あなたは、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

建築学科  環境リスク共生学科  この中にはない  
 都市基盤学科  都市共生学科

\*\*\* 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。\*\*\*

### 資料3 設置構想資料

「都市科学部(仮称)」ではユニークなカリキュラムを導入します。

- ナンバリング<sup>※</sup>を用いた履修モデル提示を行い、学修の道筋を学生に明確に示します。  
※ナンバリング  
授業科目に番号を付し分類することにより、学修段階や順序などの教育課程の体系的性を明示すること。
- 2学期6ターム制を積極的に導入し、在学期間中の国内や海外の企業や大学あるいは研究機関などの研修活動や半年あるいは1年の短期留学の実行可能性を高めます。
- 在学中に身につけるべき教育的知識・能力を重視し、学部独自で開講する科目(学部共通科目)を大幅に導入するとともに、履修基準と制限を工夫して、在学中3年以上にわたって、哲学、文化などを学ぶことにより、人間的な成長を深めます。
- 所属する学科を途中で移動することはできませんが、他学科の科目の履修の柔軟性を高めるとともに、条件を満たせば、他学科の先生のもとでの卒業研究の実施も可能になり、複数分野にまたがった勉強ができます。
- 大学の国際交流活動に連携し、重点交流大学の位置する国の言語や文化を学ぶ科目、たとえばブラジルのポルトガル語なども語学科目として認定します。
- 都市を支える人間にとって必要な俯瞰的かつ横断的な知識と思考力(「リスク共生」と「コミュニティ・イノベーション」)を養成するための基本的学問(基幹知)を共通領域として学びます。

育てる人材像

- 理工系の素養を学びかつ、本学の基本理念の先進性、開放性、国際性、実践性を強く打ち出し、多角的な世界を相互理解でき、横断的な課題解決ができる力を備えた人材の輩出をめざします。
- リスク共生の基本を学び、自然・都市・社会環境のリスクを総合的に理解し、異分野との連携をとらして、生命・財産や社会の資産、都市機能を守り、リスクと共生する都市・地域・安心・安全社会の実現を担う人材を育てます。
- 都市・地域の多様なコミュニティにおいて、イノベーションを創出・牽引する、21世紀型の持続可能な都市社会を担う人材を輩出します。
- 特に東アジア・東南アジア、中南米などでの異なるさまざまな文化、社会、商習慣、法律制度、環境リスクに適応し自己発信できる人材を輩出します。



整った施設で充実したキャンパスライフ

**中央図書館**  
約76万冊の蔵書と1100席の閲覧席があります。個人では入手困難な図書資料や電子情報等によって、教育・研究活動をサポートしています。自学自習のためのPCプラザには70台以上のパソコンを設置。またグループ学習のためのワーキングスタジオやメディアホールがあり、館内にはカフェも設置されています。

**学生センター**  
学生生活を送るために必要となる各種手続きや諸問題についての相談に対応するため、学生センターをオープンしています。1階にはナビ・ポートがあり、2階には「なんでも相談室」が開設されています。3階には就職支援を行うキャリアサポートルームがあります。入学から就職対策まで一連の学生生活を支える体制を整えています。

**メディアホール**  
講演会や研究発表会などに対応できるプロジェクトや無線LANを備えたイベントスペースです。

**1階/ナビ・ポート**  
各種証明書の自動発行機を設置しているほか、情報発信の場として就職支援等のイベントを実施しています。

**2階/なんでも相談室**  
学業・健康・進路・友人等、学生生活を送るうえで、困ったことやわからないことを気軽に相談できます。

入学科	282,000円(現行)	授業料	[春学期] 267,900円(現行)	[年額] 535,800円(現行)
-----	--------------	-----	-----------------------	----------------------

**横浜駅までの所要時間**

東京駅から約28分  
新横浜駅から約12分  
羽田空港国内線ターミナル駅から約23分

**バス構内乗入れ**

本学のキャンパス内には路線バス(相鉄バス・横浜市営バス)が運行されており、キャンパス内6か所のバス停で乗り降りできるようになっています。時刻表とバス停の場所について、下記のご案内をご覧ください。

時刻表とバス停の場所のご案内  
<http://www.ynu.ac.jp/access/>

交通アクセス(所要時間)	バス 15~20分	
	羽田空港国内線ターミナル駅	京急空港線エアポート 23分
東京駅	JR東海道本線 28分	横浜市営地下鉄 4分
新宿駅	JR湘南新宿ライン 33分	横浜市営地下鉄/JR横浜線 12分
渋谷駅	JR湘南新宿ライン/東急東横線 25分	
新横浜駅	横浜市営地下鉄/JR横浜線 12分	

# 横浜国立大学 都市科学部

(仮称)

開設に向けて設置構想中

- 建築学科(仮称) 入学予定定員 70名
- 都市基盤学科(仮称) 入学予定定員 40名
- 環境リスク共生学科(仮称) 入学予定定員 50名
- 都市共生学科(仮称) 入学予定定員 60名

本学部・学科の概要は予定であり、今後変更になる場合があります。

# 最先進都市『横浜』をフィールドに総合的に学び グローバルに活躍する人を育てる新しい学部が誕生します。

## ■新しい学部、それは「都市科学部(仮称)」です。

人類が直面しているさまざまな課題や危機を克服し、持続可能な社会を実現するために、2030年には世界人口の6割が集中し、活動がますますグローバルに広がる都市の将来像、あるべき姿を描き、それを実現していくための革新的な科学「都市科学」を学びます。

## ■「都市科学」で重要な視点、それは「コミュニティ・イノベーション」と「リスク共生」です。

革新的な科学で、あるべき都市を実現するためには、これまでにない多様な人々の協働が必要です。価値観や文化、習慣などの壁を超えてつながる革新的なコミュニティを創造しなければなりません(「コミュニティ・イノベーション」)。また、エネルギーの消費が地球温暖化にもなる風水害をもたらすなど、私たちの豊かで便利な生活にはリスクがつきもので、これからの都市には、そのことをしっかりと認識して、豊かさとのバランスを適切にマネジメントする「リスク共生」の視点が特に重要です。

## ■文理にわたる幅広い総合的な学びを、最先進都市「横浜」で展開します。

こうした考えに基づいて、「都市科学部(仮称)」は、都市づくりの中核を担う「建築学科」、「都市基盤学科」、自然環境要因も含めて都市におけるリスク共生を担う「環境リスク共生学科」、コミュニティ・イノベーションを担う「都市共生学科」の4学科で構成され、最先進都市「横浜」を学びのフィールドとして、グローバルに活躍する人材を育てます。

未来を生み出す建築、社会を支える建築のあり方を学ぶ

## ◆建築学科(仮称)



研究領域のキーワード

建築都市空間デザイン

建築理論

建築都市環境デザイン

建築構造デザイン

[学びの概要]

伝統ある先進的な建築学教育を軸に、都市を都市基盤や防災・安全・リスクを包括して総合的に学ぶ視点、人類学・地理学的な視点から批評的に考える視点、グローバルに都市を捉える視点を加えて学びます。

横浜をLiving Laboとして活用することにより、社会課題や人の営みの実像についてフィールドワークを通じて臨想的に学ぶことができます。また、社会のリアルな問題に向き合い、問題を抱える社会システムに積極的に関わり、相互に応答していく建築の可能性を探求していきます。

日本で唯一国際スタンダードの建築スタジオ教育を実践する大学院コースを持ち、その成果を学部の教育に還元させることにより世界に通用する建築の創造力・思考力を育みます。

[履修科目例]

デザインスタジオ、人間生活と建築計画、都市・地域環境計画、建築構造計画と構造デザイン、建築都市メディア論、建築インターンシップ、社会デザイン論講・フューチャーセッションなど

[取得可能な資格]

建築士(受験資格の基礎要件を満たすことができます。)

育てる人材像

世界をリードする創造的建築家・都市デザイナー、構造エンジニア、設備エンジニア、都市計画技術者、都市環境計画技術者、防災技術者、まちづくり・都市計画のファシリテーター、ランドスケープデザイナー、編集者・キュレーター、NPOリーダー、国際機関職員及びリーダー、地方自治体職員および首長、具体的な都市ビジョンとともに社会システムを更新していく社会リーダー・発言者。

目指せる主な進路

建築事務所、ゼネコン、住宅メーカー、不動産会社、公務員、横浜国立大学大学院都市イノベーション学府へ進学

実践性・国際性を強化し、防災教育を推進する

## ◆都市基盤学科(仮称)



研究領域のキーワード

土木工学

防災・減災

サステナビリティ

国際支援

[学びの概要]

伝統的な土木工学、都市基盤学教育を中心に、都市を総合的に学ぶ視点、デザインマインドを学ぶ視点、防災やリスクを学ぶ視点、グローバルに都市を捉える視点を付加して学びます。

構造工学、水工学、地盤工学、計画学、コンクリート工学の基幹5分野に加え、都市環境及び持続的発展、国際協力分野を充実させ、自然環境との調和、地球環境と社会的公平性と経済的効率性のバランスある発展、国際的な技術協力支援などの今日的課題に取り組みます。

[履修科目例]

地域都市計画、地震防災都市論、都市環境システム論、建設の国際プロジェクトマネジメント、海岸環境工学、メンテナンス工学、途上国における都市づくり、海外インターンシップなど

[取得可能な資格]

技術士補、測量士補

育てる人材像

豊かで持続可能な生活空間、産業・生産活動の礎を構築するため、技術の限界と避けることのできないリスクを認識し、既存の産業形態にとらわれず、総合的な視点からイノベーションに、安全で靱性の高い国土基盤、地球環境と経済的効率性のバランスある社会基盤の実現に貢献できる、また今日的グローバル課題解決に貢献できる土木技術者を育成する。

目指せる主な進路

ゼネコン、道路会社、鉄道会社、公務員、コンサルタント、国際機関、横浜国立大学大学院都市イノベーション学府へ進学

都市・地方・自然環境のリスクと解決策を総合的に学ぶ

## ◆環境リスク共生学科(仮称)



研究領域のキーワード

都市環境

自然環境

リスク共生

持続可能な社会

[学びの概要]

ヒトから都市、生態系、地球までのシステム全体を俯瞰的に理解し、リスクの基礎理論、都市・地域におけるさまざまな環境リスク(地球・生態の自然環境、人工環境、社会環境のリスク)についての知識を多角的に学びます。また、私たちが豊かさを求める営みと、表裏一体で生じているリスクとのバランスを適切にマネジメントする「リスク共生」の視点から、持続可能な社会を実現する都市・地域づくりへの適切な解決策を考え、それを実践できる能力を身につけるために、異なる分野同士の連携・協働、社会調査手法、リスクマネジメント、政策、組織、自治体の計画、GIS(地理情報システム)等による空間解析手法などについて、フィールドでの演習なども取り入れて、文理を融合した視点で実践的に学びます。

[履修科目例]

環境リスク共生学、環境・エネルギーシステム論、リスク情報処理、都市生態学、保全・復元生態学、地球システム論、GISによる地域解析演習、社会調査法など

育てる人材像

リスクの基本原則を理解し、地球・生態系の自然環境、および都市環境におけるリスクを総合的に学び、豊かさの実現とリスクのバランスを適切に管理するリスクと共生する社会の実現を担う人材。そのために必要なソリューションを提供・実践する、異分野との横断的な連携、社会と対話ができる人材。

目指せる主な進路

環境や建設分野のコンサルティング会社・シンクタンク、自然環境に関する公務員、リスクコンサルティング会社・シンクタンク、行政機関、都市防災関係、エネルギー関係、NPO等、横浜国立大学大学院環境情報学府へ進学

世界の多様な価値観から、未来のコミュニティを切り拓く

## ◆都市共生学科(仮称)



研究領域のキーワード

都市・地域再生

社会開発・国際支援

メディア・コミュニケーション

社会・文化政策立案

[学びの概要]

現代の社会では、多様な価値観、文化的背景、経済的環境の相違などから様々な問題が生じています。その本質を理解し、解決策の構想と実践を通じて、コミュニティや社会のネットワーク再構築の方法を学びます。ローカルな都市社会・文化の課題を分析・理解して解決策を提案する能力や、グローバルな都市社会・文化の多元性を理解して、持続可能な世界を育むための能力を高めます。人と都市社会・文化の本質を把握する能力を深め、対話・コミュニケーションや表現によって、文化や世界の断裂を克服するための、アクティブなプロジェクトや政策提言をまとめ上げる力を養います。ローカルとグローバル、両方のフィールドでコミュニティやネットワークを再構築し、文化・社会の側面から未来の都市や地域を開いていく学科です。

[履修科目例]

コミュニティ社会・文化概論、メディア・コミュニケーション概論、異文化交流概論、政治分析と解決、国際日本学、国際開発学、フィールド実践入門、文化マネジメント演習、海外研究スタジオなど

育てる人材像

現代の社会・政治の問題に対する強い関心と、文化に備わる共生の力に対する深い知識を持ち、地域コミュニティの再構築や日本文化の海外発信に代表されるグローバル・コミュニケーションに活かすことができるビジョンを持った人。未来の都市社会・文化の豊かさに貢献する活動のできる人。

目指せる主な進路

行政、グローバル企業、外資企業、国際機関、NGO、コンサルタント、芸術文化支援財団・企業、横浜国立大学大学院都市イノベーション学府へ進学

学部の特徴

●都市についての自然科学を中心に、社会科学や人文科学の視点や考え方も組み入れて総合的に学ぶ、文理融合の学部です。

●建築、土木、環境、防災、人文社会など都市・地域づくりの諸領域を学びます。

●わが国や新興国などのこれからの都市・地域づくりを担う視野の広さを養います。

●多様なリスクの要因でもある都市を対象に、豊かさを求める営みと、表裏一体で生じているリスクのバランスを適切にマネジメントする「リスク共生」と、たくさんの人々が価値観や文化、習慣などの壁を超えてつながる革新的なコミュニティの創造(「コミュニティ・イノベーション」)を基幹知として学びます。

●ローカルとグローバルの接点である都市が、スケールを超えて資源やエネルギーなどを調達しつつ人間に豊かさとのリスクをもたらす実態を、人-建築-都市-地球というスケールにまたがって、俯瞰的、構造的、空間的に学びます。

●開港以来、国際性を育み、大きな地震のリスクと丘陵地から水際空間まで多様な様相の都市空間を有し、環境未来都市としての新しい取り組みを展開するグローバル都市横浜をフィールドに都市科学を学びます。

●特に人材育成において重要度の高い、建築学、都市基盤(土木)学、環境リスク共生学、都市共生学を学科として設置します。他の領域は本学の他学部の提供する科目で学びます。

#### 資料4 日本留学アワーズ受賞（表彰状）

# 日本留学 AWARDS



日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先

一般財団法人日本語教育振興協会 日本語学校教育研究大会主催



Like 165 people like this. Be the first of your friends.



2015年表彰式の様子

1/1

HOME

ABOUT

ニュース

結果

募集

CONTACT

ギャラリー

## WELCOME

これは、日本留学AWARDSの公式WEBページです。

一般財団法人日本語教育振興協会「日本語学校教育研究大会」主催の留学生の環境整備を目的に設立した賞です。

8月10日（月）、平成27年度日本語学校教育研究大会が行われ、部門別、東西地域のトップ校が発表されました。投票していただいた日本語学校の皆様、お忙しい中、また遠方からお越しいただきました専門学校・大学・大学院の皆様、ご出席いただきました日本語学校・日本語教育関係者の皆様、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

### 2015年日本留学AWARDS 結果発表！

新着情報 News!

日本留学AWARDS2015 結果発表！

日本電子専門学校  
辻調理師専門学校  
インタビュー掲載

選考方法

[日本留学AWARDSの選考方法はこちら](#)

受賞校

これまでの受賞校一覧です。トップ校、上位入賞校だけでなく、名前の挙がった学校が全て見られます

受賞校インタビュー archive

過去の受賞校へのインタビューです。

日本語学校の声

多くの日本語学校の現場の教職員から様々な声が寄せられました。進学先への要望、苦言も含め、進学先への思いをご紹介します。

サポーター

日本留学アワードの趣旨に賛同し、応援して下さる機関、企業、留学関連会社

PRESS

プレスリリース、および各メディアに取り上げられた記事をご紹介します。

Photo Gallery

授賞の様子、インタビュー、委員会などの写真をアップしました。

FAQ

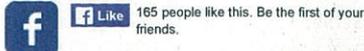
よくある質問をまとめました。直接のお問い合わせの前に参考にしてください。

# 日本留学 AWARDS



日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先

一般財団法人日本語教育振興協会 日本語学校教育研究大会主催



2015年表彰式の様子

▶ 1/1

- HOME
- ABOUT
- ニュース
- 結果
- 募集
- CONTACT
- ギャラリー

## 受賞校・ノミネート校の声 (国公立大学)

2015年8月10日に代々木のオリンピックセンターカルチャー棟小ホールにて2015年日本留学AWARDSの授賞式を行いました。当日ご出席いただいた方からのコメントを掲載いたします。(五十音順、敬称略、●は東西受賞校)

●横浜国立大学  
伊藤 陽子 (学務・国際部国際課課長)

このたびは日本留学アワーズのノミネートおよび表彰をいただき誠にありがとうございました。横浜国立大学は4つの理念の一つに国際性を掲げ、留学生の受入や日本人学生の海外派遣の推進に力を入れているところでございますが、近年、文部科学省が実施するグローバル教育関係の競争的資金獲得が、ごとごとくうまくいかず、憔悴たる思いでありましたところ、常日頃、日本で進学するために熱心に日本語等の勉強に取り組んでいらっしゃる留学生の皆さんを一番近くて支えていらっしゃる日本語学校の教職員のみならず、「留学生に進めたい進学先」の一つとして横浜国立大学を選んでくださいましたこと、学長、国際担当理事はじめ教職員一同、大変光栄に、また、嬉しく思っております。今後は今回の受賞を励みに、留学生のみならず日本に留学して良かった、横浜国立大学で勉強できて良かった、自分たちの後輩にもぜひ横浜国立大学を推薦したいと思っただけのよう、また、今回横浜国立大学にご投票下さった皆様のお思いに添えるよう、留学生の皆さんに有益な教育プログラムの更なる構築や留学生の生活・学習支援のより一層の充実にも努めて参りたいと考えていますので、引き続きご支援させていただきますようお願い申し上げます。

●大阪教育大学  
長谷川 コリ (国際センター 教授)

このたびは「日本留学AWARDS」上位入賞校に選んでいただき、大変光栄に存じます。本学は「留学生にやさしい大学」を目指して、学生の皆さんが安心して勉強に専念できるような環境づくりに取り組んでまいりました。何か問題があった時にすぐ相談できる体制を整え、学習上・生活上のきめ細かい支援を行うよう心がけておりますが、学生一人一人と真剣に向き合い、幅広いニーズを見極め、満足度を高めるためには今後も一層の努力が必要だと痛感しております。日本人学生と留学生がともに学び合う魅力的なキャンパスとなるよう、励んでいきたいと思っております。

●千葉大学  
村岡 英裕 (国際教育センター センター長)

このたび、日本留学AWARDSの国公立大学部門に初めて入賞させていただき、感謝しております。千葉大学ではスーパーグローバル大学創成支援事業にも採択され、よりいっそうの留学生の受け入れに取り組んでいるところでしたので、受賞の喜びもひとしおです。また、東日本大震災を機に創設された、日本語学校教職員の投票による日本留学AWARDSは、昨今の大学のグローバル化をすすめるうえで、大学と留学生とをむすぶ連携作業として重要なものであると思っております。入賞理由を拜見させていただきますと、千葉大学の少人数教育の良さ、そして千葉大学の意欲でもある「つねに、より高きものをめざして」研究教育に携わる熱心な教員の姿勢が評価されており、たいへんうれしく思います。千葉大学はさらに来年度以降も留学生に大学メンバーの一員になってもらう施策を広げてまいります。入賞に恥じないよう、1人1人の留学生のためになる教育をすすめていく所存ですので、今後とも注目していただければ存じます。本当にありがとうございました。

●東京工業大学  
野原佳代子 (留学生センター教授 副センター長)

このたびは国公立大学部門賞(東日本地区)をいただき、たいへん光栄です。日本で留学生の声に日々耳を傾けていらっしゃる日本語教育の現場の先生方にごこうした評価をいただいたことは、私たちにとって大きな励みとなりました。受賞理由として、とくに「教員が学生をよく把握しており留学生にもきめ細かく指導している」が挙げられていることは嬉しく、今後も留学生目線に立つことを忘れずにいたいと思っております。東工大ではH28年度から教育改革に基づく新体制がスタートしますが、その中で「海外から人が来る大学」「海外に人が出ていく大学」にしていきたいと、学長主導により、一層の国際化を目指しています。理工系を中心とするキャンパスライフにおける、留学生へのきめ細かな支援、教育環境の整備は本学国際化のひとつの大きなカギであることは言うまでもありません。今回評価をいただいた留学生支援を、それだけで閉じることなく、日本人学生や教員、産業界との豊かな対話や協働につなげていきたいと思っております。とくに刺激し合いながら国際的な視野と発想力を身に着ける、東工大らしい国際教育へと展開させていければと、夢はふくらみます。今後ともぜひご支援、ご協力を賜ることができれば幸いです。段落です。テキストを追加したり編集するにはここをクリックしてください。ここはお話をしたりあなたについて訪問者を知ってもらうのに絶好の場所です。



平成27年日振協日本語学校教育研究大会実行委員会主催

# 日本留学AWARDS

日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先

東日本地区国公立大学部門賞

Nihon-Ryugaku Awards  
National & Public Universities  
of East Japan  
2015 NOMINEE

横浜国立大学  
Yokohama National University

## 資料5 出身高校地域別志願者数

# 一般入試における出身高校地域別志願者数【地域別】

			関東	東北・北海道	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	合計	神奈川県比率	東京都比率	関東比率	他府県比率	
			小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計						
H27年度	教育人間科学部	人間文化課程	前期日程	131	15	14	35	14	7	8	17	263	24.0%	19.0%	58.3%	41.7%
			後期日程	231	20	15	59	20	10	8	20	358				
			計	362	35	29	94	34	17	16	37	621				
	理工学部	建築EP	前期日程	178	12	7	25	17	3	7	14	263	26.2%	30.3%	72.3%	27.7%
			後期日程	271	7	8	24	21	6	4	17	358				
			計	449	19	15	49	38	9	11	31	621				
		都市基盤EP	前期日程	51	1	1	1	1	0	0	2	57	26.7%	45.2%	90.4%	9.6%
			後期日程	71	0	0	4	1	0	1	1	78				
			計	122	1	1	5	2	0	1	3	135				
		地球生態学EP	前期日程	45	3	3	6	1	3	1	2	64	35.9%	26.6%	70.3%	29.7%
			後期日程	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
			計	45	3	3	6	1	3	1	2	64				
総計			前期日程	405	31	25	67	33	13	16	35	625	25.7%	26.6%	67.7%	32.3%
			後期日程	573	27	23	87	42	16	13	38	819				
			計	978	58	48	154	75	29	29	73	1444				
H26年度	教育人間科学部	人間文化課程	前期日程	85	16	14	34	18	7	3	20	197	18.6%	21.2%	47.5%	52.5%
			後期日程	157	21	25	43	21	8	6	32	313				
			計	242	37	39	77	39	15	9	52	510				
	理工学部	建築EP	前期日程	170	11	9	23	11	10	5	10	249	23.7%	27.9%	68.3%	31.7%
			後期日程	231	12	9	21	30	13	5	17	338				
			計	401	23	18	44	41	23	10	27	587				
		都市基盤EP	前期日程	36	2	2	5	2	2	0	6	55	26.7%	30.1%	72.6%	27.4%
			後期日程	70	5	0	6	3	1	1	5	91				
			計	106	7	2	11	5	3	1	11	146				
		地球生態学EP	前期日程	36	4	0	6	4	0	0	4	54	44.4%	11.1%	66.7%	33.3%
			後期日程	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
			計	36	4	0	6	4	0	0	4	54				
総計			前期日程	327	33	25	68	35	19	8	40	555	22.9%	24.8%	60.5%	39.5%
			後期日程	458	38	34	70	54	22	12	54	742				
			計	785	71	59	138	89	41	20	94	1297				

一般入試における出身高校地域別志願者数【都道府県別内訳】

			関東								東北・北海道									
			神奈川	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	小計	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	小計		
H27年度	教育人間科学部	人間文化課程	前期日程	54	4	2	8	12	11	40	131	9	1		4			1	15	
			後期日程	95	12	6	11	15	14	78	231	8	2	2	2	2		4	20	
			計	149	16	8	19	27	25	118	362	17	3	2	6	2	0	5	35	
	理工学部	建築EP	前期日程	71	8	2	4	18	11	64	178	7		2	1	1		1	12	
			後期日程	92	6	1	1	26	21	124	271	3			3		1		7	
			計	163	14	3	5	44	32	188	449	10	0	2	4	1	1	1	19	
		都市基盤EP	前期日程	15		1		7	2	26	51				1				1	
			後期日程	21		1	1	6	7	35	71								0	
			計	36	0	2	1	13	9	61	122	0	0	0	1	0	0	0	1	
		地球生態学EP	前期日程	23				1	4	17	45	1			2					3
			後期日程								0									0
			計	23	0	0	0	1	4	17	45	1	0	0	2	0	0	0	0	3
	総計			前期日程	163	12	5	12	38	28	147	405	17	1	2	8	1	0	2	31
後期日程				208	18	8	13	47	42	237	573	11	2	2	5	2	1	4	27	
計				371	30	13	25	85	70	384	978	28	3	4	13	3	1	6	58	
H26年度	教育人間科学部	人間文化課程	前期日程	35	2	2		5	5	36	85	6	2	2	4			2	16	
			後期日程	60	4	1	3	10	7	72	157	6	2	2	5	1	1	4	21	
			計	95	6	3	3	15	12	108	242	12	4	4	9	1	1	6	37	
	理工学部	建築EP	前期日程	68	6	2	3	22	15	54	170	6	1	1	2			1	11	
			後期日程	71	3	1	4	22	20	110	231	5	2	1	2		1	1	12	
			計	139	9	3	7	44	35	164	401	11	3	2	4	0	1	2	23	
		都市基盤EP	前期日程	12			1	6	4	13	36	1			1				2	
			後期日程	27	1		2	3	6	31	70	1		1	1			2	5	
			計	39	1	0	3	9	10	44	106	2	0	1	2	0	0	2	7	
		地球生態学EP	前期日程	24	2			1	3	6	36	3							1	4
			後期日程								0									0
			計	24	2	0	0	1	3	6	36	3	0	0	0	0	0	0	1	4
	総計			前期日程	139	10	4	4	34	27	109	327	16	3	3	7	0	0	4	33
後期日程				158	8	2	9	35	33	213	458	12	4	4	8	1	2	7	38	
計				297	18	6	13	69	60	322	785	28	7	7	15	1	2	11	71	

				北陸					中部						近畿								
				新潟	富山	石川	福井	小計	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	小計	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	小計	
H27年度	教育人間科学部	人間文化課程	前期日程	5	6	2	1	14		7	1	15	10	2	35		5	2	4	1	2	14	
			後期日程	4	7	3	1	15	3	9	6	21	16	4	59	1	5	6	3	1	4	20	
			計	9	13	5	2	29	3	16	7	36	26	6	94	1	10	8	7	2	6	34	
	理工学部	建築EP	前期日程	4	1	1	1	7	1	3		7	11	3	25	1	1	8	5	1	1	17	
			後期日程	3	2	1	2	8	1	4	1	7	9	2	24	1	4	10	3	3		21	
			計	7	3	2	3	15	2	7	1	14	20	5	49	2	5	18	8	4	1	38	
		都市基盤EP	前期日程			1		1						1	1				1			1	
			後期日程					0				2	1	1	4						1		1
			計	0	0	1	0	1	0	0	0	2	1	2	5	0	0	0	1	1	0	2	
		地球生態学EP	前期日程	1			2	3		1		1	4		6	1						1	
			後期日程					0							0							0	
			計	1	0	0	2	3	0	1	0	1	4	0	6	1	0	0	0	0	0	1	
総計			前期日程	10	7	4	4	25	1	11	1	23	25	6	67	2	6	10	10	2	3	33	
			後期日程	7	9	4	3	23	4	13	7	30	26	7	87	2	9	16	6	5	4	42	
			計	17	16	8	7	48	5	24	8	53	51	13	154	4	15	26	16	7	7	75	
H26年度	教育人間科学部	人間文化課程	前期日程	5	4	1	4	14		5	5	8	14	2	34	2	2	4	6		4	18	
			後期日程	8	5	7	5	25	3	1	6	11	17	5	43	2	3	6	5	2	3	21	
			計	13	9	8	9	39	3	6	11	19	31	7	77	4	5	10	11	2	7	39	
	理工学部	建築EP	前期日程	6	1	1	1	9	1	4		7	10	1	23	1	2	3	4		1	11	
			後期日程	2	2	4	1	9	1	3	1	5	10	1	21	1	5	7	14	3		30	
			計	8	3	5	2	18	2	7	1	12	20	2	44	2	7	10	18	3	1	41	
		都市基盤EP	前期日程	1		1		2		2		2	1		5			1	1			2	
			後期日程					0	1			1	4		6	1	2					3	
			計	1	0	1	0	2	1	2	0	3	5	0	11	1	2	1	1	0	0	5	
		地球生態学EP	前期日程					0			1	3	2		6			2		2		4	
			後期日程					0							0							0	
			計	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2	0	6	0	0	2	0	2	0	4	
総計			前期日程	12	5	3	5	25	1	11	6	20	27	3	68	3	4	10	11	2	5	35	
			後期日程	10	7	11	6	34	5	4	7	17	31	6	70	4	10	13	19	5	3	54	
			計	22	12	14	11	59	6	15	13	37	58	9	138	7	14	23	30	7	8	89	

			中国					四国					九州								合計			
			鳥取	島根	岡山	広島	山口	小計	徳島	香川	愛媛	高知	小計	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島		沖縄	小計	
H27年度	教育人間科学部	人間文化課程	前期日程			2	5		7	2	2	1	3	8	4		2	1	1	4	4	1	17	263
			後期日程	1			8	1	10	2	4	1	1	8	6		2	1	2	2	6	1	20	358
			計	1	0	2	13	1	17	4	6	2	4	16	10	0	4	2	3	6	10	2	37	621
	理工学部	建築EP	前期日程				3		3	1	3	3		7	8			2		1		3	14	263
			後期日程				4	2	6		3	1		4	8	2	1	2	1		1	2	17	358
			計	0	0	4	5	0	9	1	6	4	0	11	16	2	1	4	1	1	1	5	31	621
		都市基盤EP	前期日程						0					0	1						1		2	57
			後期日程						0			1		1							1		1	78
			計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	3	135
		地球生態学EP	前期日程				2	1	3			1		1	1					1			2	64
			後期日程						0					0									0	0
			計	0	0	0	2	1	3	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	2	64
総計			前期日程	0	0	2	10	1	13	3	5	5	3	16	14	0	2	3	1	6	5	4	35	625
			後期日程	1	0	4	10	1	16	2	7	3	1	13	14	2	3	3	3	2	8	3	38	819
			計	1	0	6	20	2	29	5	12	8	4	29	28	2	5	6	4	8	13	7	73	1444
H26年度	教育人間科学部	人間文化課程	前期日程	2	1		3	1	7		1	1	1	3	8	2	3	1	1	3	1	20	197	
			後期日程	3		1	1	3	8	1	2	1	2	6	11	2	2	3	2	3	8	1	32	313
			計	5	1	1	4	4	15	1	3	2	3	9	19	4	5	4	3	4	11	2	52	510
	理工学部	建築EP	前期日程			4	5	1	10	1	2	2		5	6	2	1	1				10	249	
			後期日程			5	7	1	13		2	3		5	7	2	3	2	1		1	1	17	338
			計	0	0	9	12	2	23	1	4	5	0	10	13	4	4	3	1	0	1	1	27	587
		都市基盤EP	前期日程			1	1		2					0	4	1					1		6	55
			後期日程				1		1				1	1	5								5	91
			計	0	0	1	2	0	3	0	0	0	1	1	9	1	0	0	0	0	1	0	11	146
		地球生態学EP	前期日程						0					0	3		1						4	54
			後期日程						0					0									0	0
			計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	4	54
総計			前期日程	2	1	5	9	2	19	1	3	3	1	8	21	5	5	2	1	1	4	1	40	555
			後期日程	3	0	6	9	4	22	1	4	4	3	12	23	4	5	5	3	3	9	2	54	742
			計	5	1	11	18	6	41	2	7	7	4	20	44	9	10	7	4	4	13	3	94	1297

**資料6 横浜国立大学「都市科学部」（仮称）設置に  
関するアンケート調査【企業版】**

---

---

**横浜国立大学「都市科学部」(仮称)  
設置に関するアンケート調査  
【企業対象調査】  
結果報告書**

---

---

**平成28年1月  
株式会社 進研アド**

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

# 企業対象 調査概要

## 1. 調査目的

2017年4月開設予定の「横浜国立大学 都市科学部」の新設構想に関して、企業の人材ニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業の人事関連業務担当者
調査エリア		岩手県、山形県、福島県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、長崎県、熊本県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	1,600社
	回収数(回収率)	343社(21.4%)
調査時期		2015年10月20日(火)～2015年12月1日(火)
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

企業対象調査
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事採用への関与度</li> <li>・本社所在地</li> <li>・業種</li> <li>・従業員数</li> <li>・正規社員の平均採用人数</li> <li>・本年度の採用予定数</li> <li>・採用したい学問系統</li> <li>・学部・各学科の特色に対する魅力度</li> <li>・各学科の社会的必要性</li> <li>・各学科卒業生の採用意向</li> <li>・各学科卒業生の毎年の採用想定人数</li> </ul>

## 企業対象 調査結果まとめ

## 企業対象 調査結果まとめ

### 回答企業(回答者)の属性

※ 本調査は、横浜国立大学の新学部である「都市科学部」に対する人材需要を確認するための調査として設計したため、横浜国立大学卒業生が就職している、もしくは卒業生の就職先として想定される企業・団体の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、343企業から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は19.5%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が71.1%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社所在地は「東京都」が59.5%と最も多い。
- 回答企業の業種としては「製造業」が29.2%と最も多く、次いで「卸売・小売業」が15.5%、「建設業」が12.8%と多い。
- 回答企業の正社員数は「1,000名～5,000名未満」が33.2%で最も多い。

### 回答企業の採用状況(過去3か年)

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は、「100名以上」が22.2%で最も多い。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が55.4%で最も高い。次いで、「増やす」が26.8%で高く、昨年度以上の採用が予定されている様子。
- 回答企業の採用したい学問系統は、「学部や学問にはこだわらない」が49.0%で最も高い。  
その他では、都市科学部の学問内容と関連する「工学」(44.9%)が高い。

## 企業対象 調査結果まとめ

### 学部・各学科の特色に対する魅力度

- 「都市科学部の特色」に対する魅力度(※)は、全ての特色で7割を超える。
- 「都市科学部の特色」のうち、「年間を4学期に区分したカリキュラム構成で、在学途中で半年から1年間、国内や海外の研究機関や企業で研修できる。」に対する魅力度は90.4%で「都市科学部の特色」項目中最も高い。
- 「学科ごとの特色」のうち、「都市共生学科の特色」である「多様な価値観からなる都市社会のコミュニティを支える人材となるため、人文社会科学の視点を組み入れたグローバルかつローカルな都市共生学を学ぶ。」に対する魅力度は82.5%で、「学科ごとの特色」項目中最も高い。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

### 各学科の社会的必要性

- 「都市科学部」の社会的必要性についての評価は、4学科とも8割以上であり、うち3学科は9割を超えている。
- 建築学科:93.3% (320企業)
- 都市基盤学科:92.7% (318企業)
- 環境リスク共生学科:90.7% (311企業)
- 都市共生学科:85.4% (293企業)

## 企業対象 調査結果まとめ

### 各学科卒業生の採用意向／ 毎年の採用想定人数

- 都市科学部の各学科に採用意向を示した企業は以下の通りである。  
建築学科:65.9% (226企業)  
都市基盤学科:67.3% (231企業)  
環境リスク共生学科:69.1% (237企業)  
都市共生学科:69.4% (238企業)
- 都市科学部の各学科卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業に対し、該当学科卒業生を毎年何名程度採用すると想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数の合計は以下の通りである。  
建築学科:326名  
都市基盤学科:296名  
環境リスク共生学科:280名  
都市共生学科:273名

### 採用意向 属性別傾向

◇本社所在地別

- 建築学科の「東京都」からの採用意向は66.7% (136企業)、地元である「神奈川県」からの採用意向は59.1% (13企業)。
- 都市基盤学科の「東京都」からの採用意向は71.1% (145企業)、地元である「神奈川県」からの採用意向は54.5% (12企業)。
- 環境リスク共生学科の「東京都」からの採用意向は72.1% (147企業)、地元である「神奈川県」からの採用意向は68.2% (15企業)。
- 都市共生学科の「東京都」からの採用意向は71.1% (145企業)、地元である「神奈川県」からの採用意向は59.1% (13企業)。

## 企業対象 調査結果まとめ

---

### 採用意向 属性別傾向

#### ◇業種別

- 建築学科の「建設業」からの採用意向は97.7% (**43企業**)である。
- 都市基盤学科の「建設業」からの採用意向は86.4% (**38企業**)である。
- 環境リスク共生学科の「建設業」からの採用意向は65.9% (**29企業**)である。
- 都市共生学科の「建設業」からの採用意向は54.5% (**24企業**)である。

#### ◇採用したい学問系統別

- 「社会学」を学んだ学生を採用したいと考える企業からの建築学科卒業生の採用意向は60.9% (**39企業**)、「工学」は61.0% (**94企業**)である。
- 「社会学」を学んだ学生を採用したいと考える企業からの都市基盤学科卒業生の採用意向は62.5% (**40企業**)、「工学」は60.4% (**93企業**)。
- 「社会学」を学んだ学生を採用したいと考える企業からの環境リスク共生学科卒業生の採用意向は71.9% (**46企業**)、「工学」は59.7% (**92企業**)。
- 「社会学」を学んだ学生を採用したいと考える企業からの都市共生学科卒業生の採用意向は75.0% (**48企業**)、「工学」は59.1% (**91企業**)。

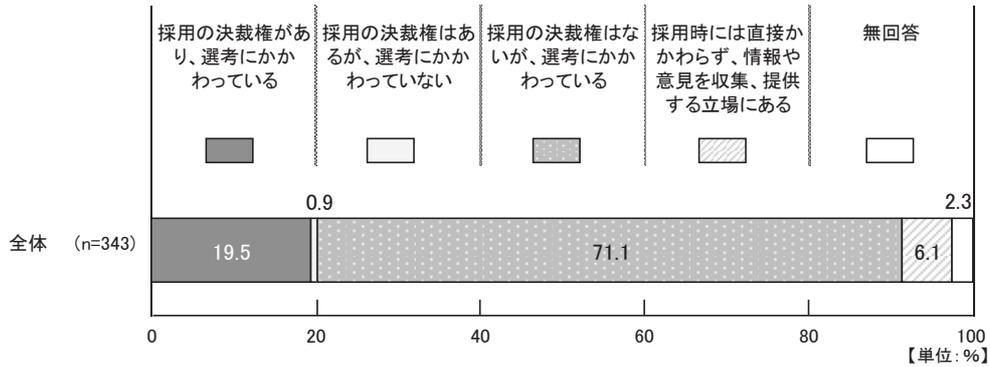
## 企業対象 調査結果



## 回答企業(回答者)の属性(人事採用への関与度/本社所在地)

### ■人事採用への関与度

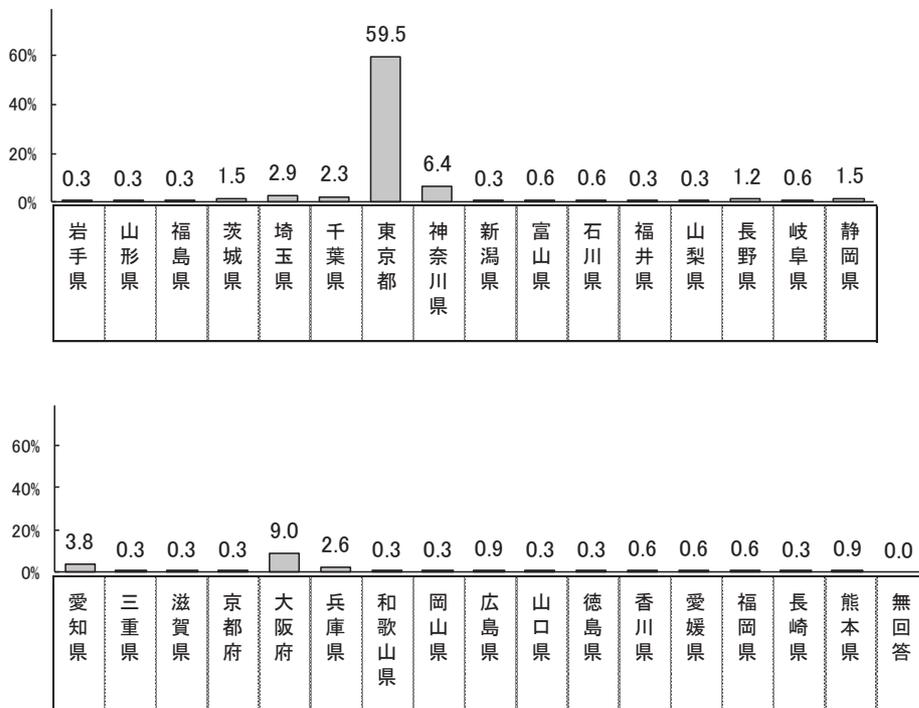
Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



### ■本社所在地

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

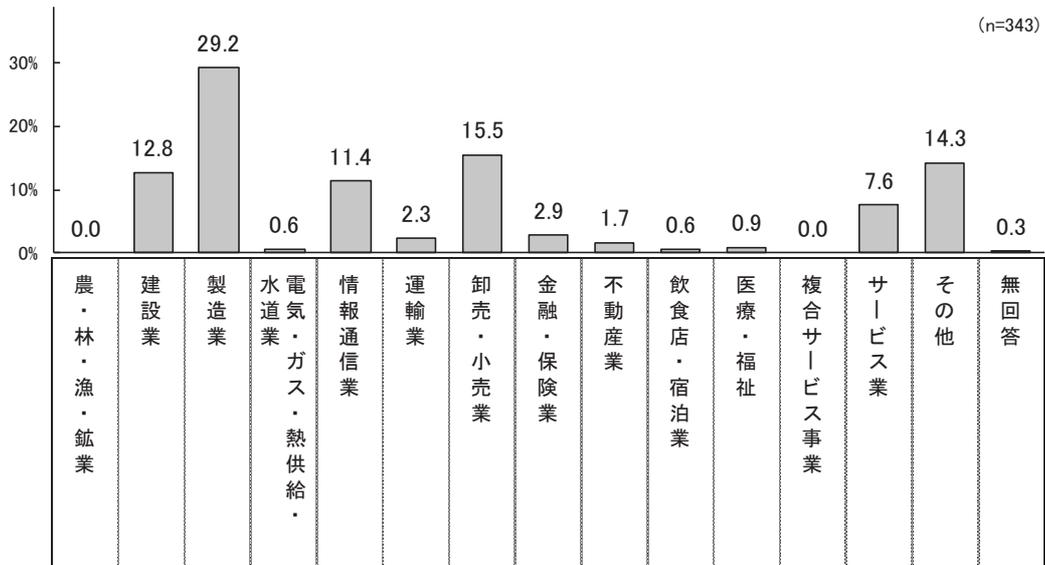
(n=343)



## 回答企業(回答者)の属性(業種/従業員数)

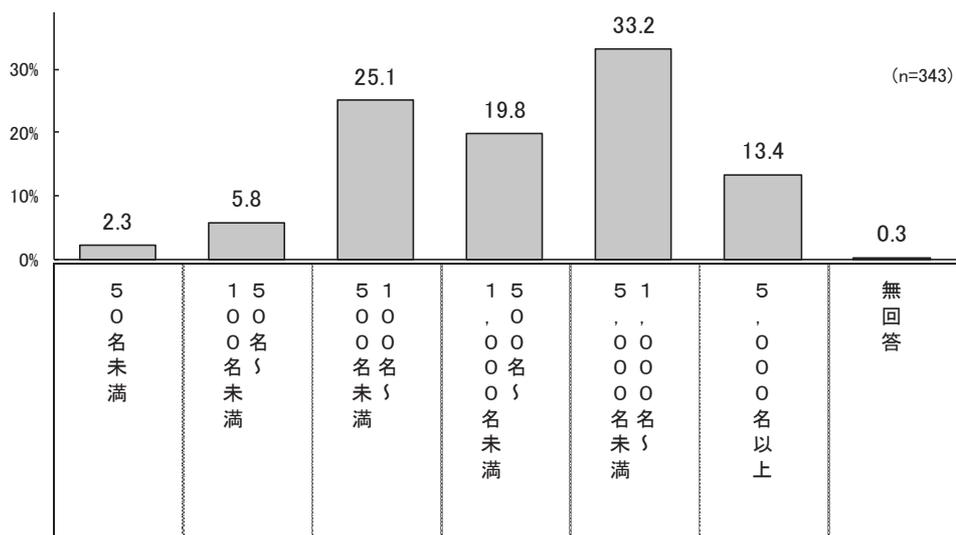
### ■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



### ■従業員数

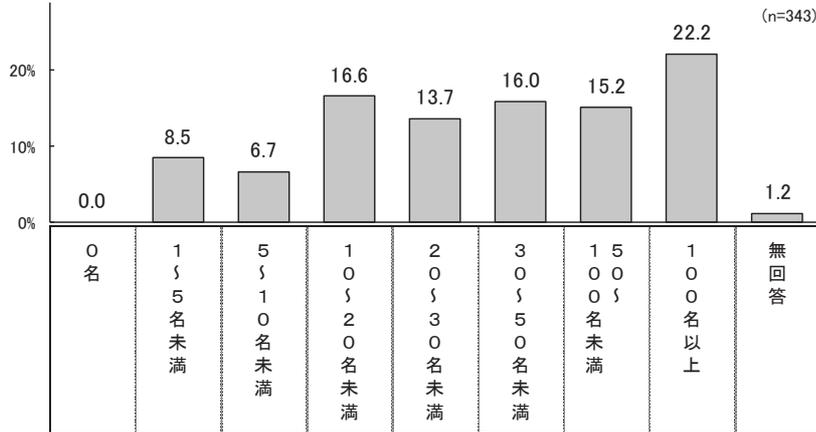
Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



# 正規社員の平均採用人数／本年度の採用予定数／採用したい学問系統

## ■正規社員の平均採用人数

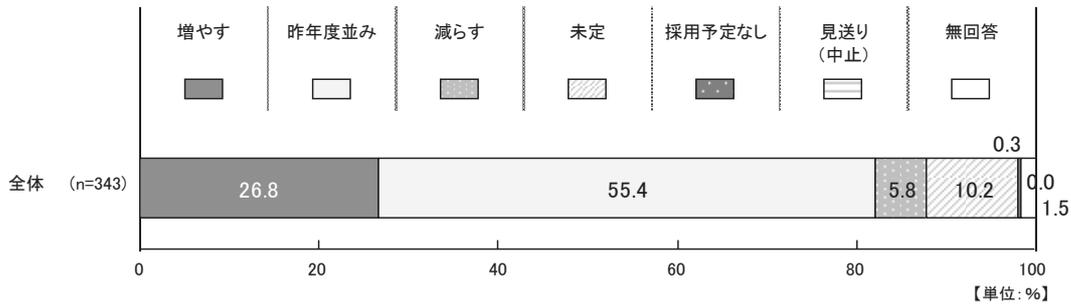
Q5. 貴社・貴団体の1年あたりの平均的な正規社員採用数をお教えてください。過去3か年の状況をお考えください。



※自由記述で聴取した人数をカテゴリー分けしてグラフ化

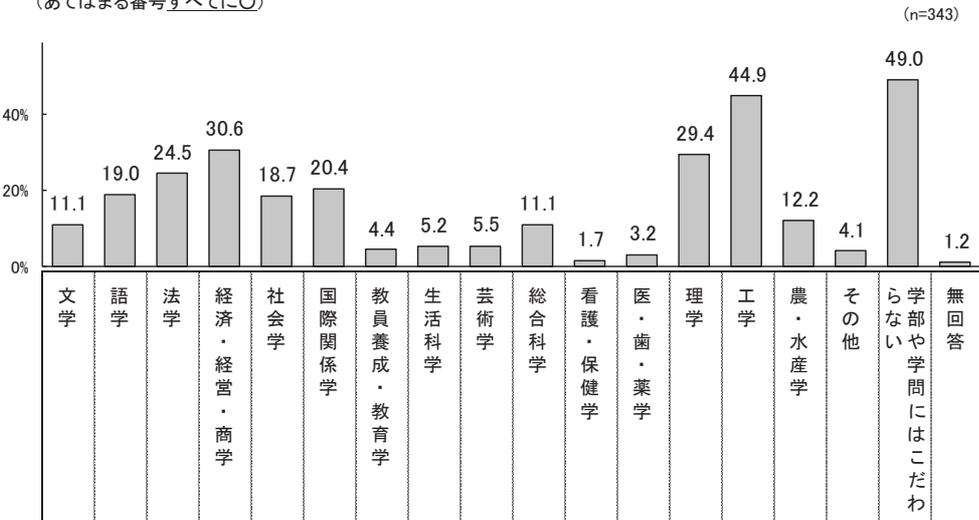
## ■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)



## ■採用したい学問系統

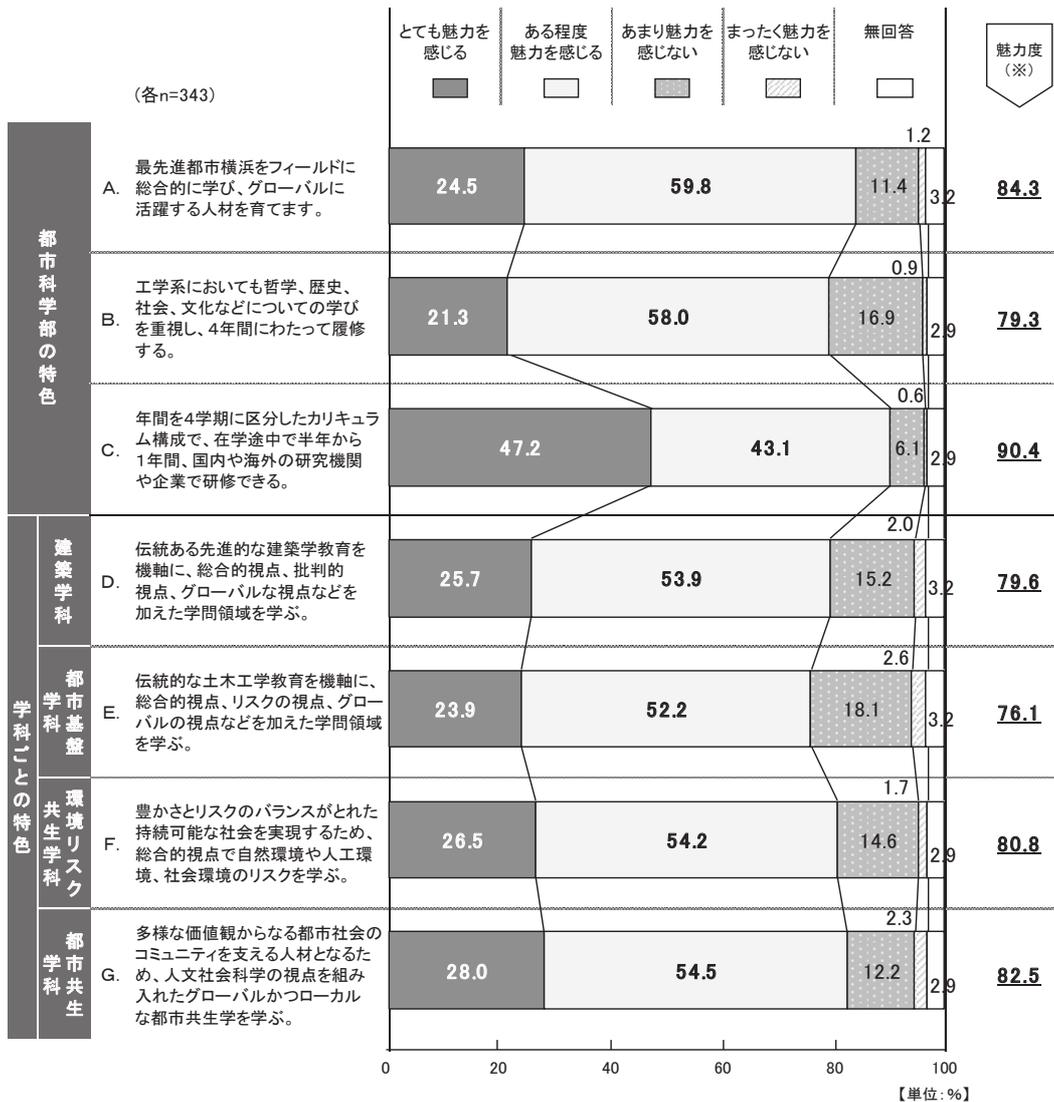
Q7. 貴社・貴団体では、どのような系統の学部を卒業した人物を採用したいとお考えですか。(あてはまる番号すべてに○)



# 学部・各学科の特色に対する魅力度

## ■学部・各学科の特色に対する魅力度

Q8. 横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)、「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)には以下のような特色があります。  
 貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。  
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

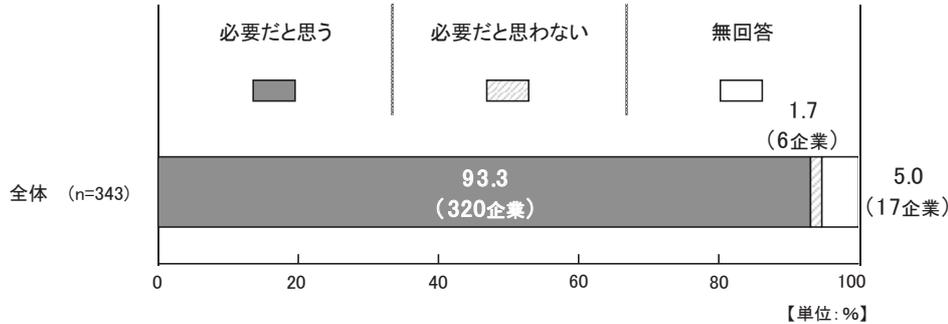


※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

## 「都市科学部 建築学科」の社会的必要性／卒業生の採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

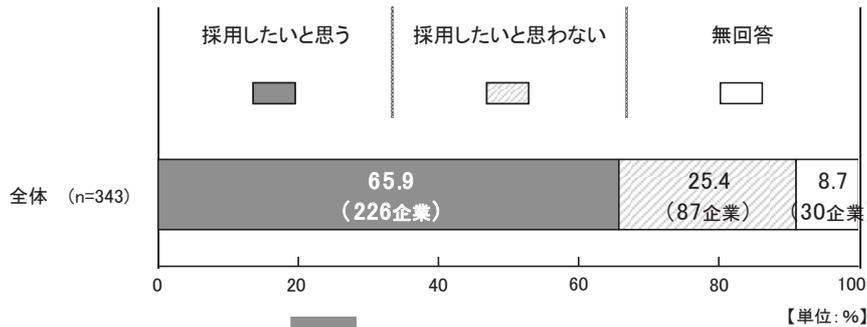
### ■「都市科学部 建築学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



### ■「都市科学部 建築学科」卒業生の採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「都市科学部 建築学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた226企業のみ抽出

### ■「都市科学部 建築学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

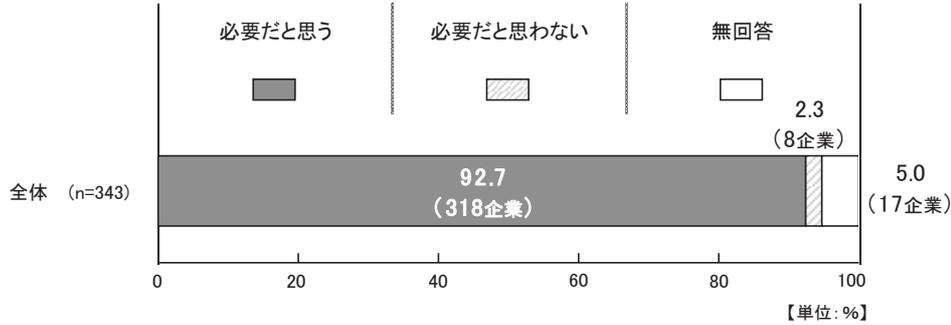
調査数	単位	1名	2名	3名	4名	5名〜9名	10名以上	人数は未確定	無回答	⇒	毎年の採用想定人数(名)
		割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数		
226	%	17.3	7.1	2.7	0.9	0.4	3.1	68.1	0.4		326
	件	39	16	6	2	1	7	154	1		

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名〜9名」=5名、「10名以上」=10名、「人数は未確定」=1名を代入し合計値を算出

## 「都市科学部 都市基盤学科」の社会的必要性／卒業生の採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

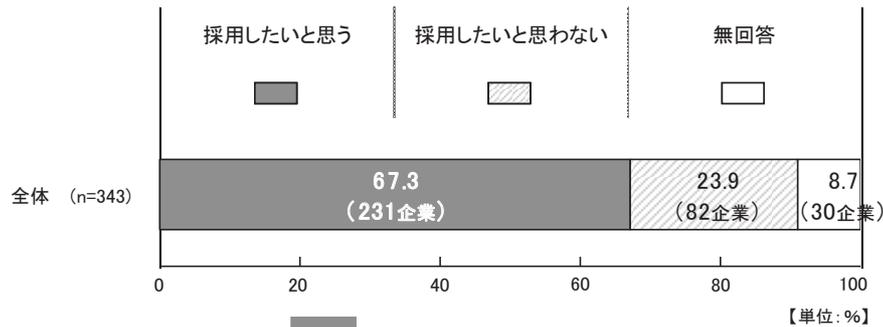
### ■「都市科学部 都市基盤学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



### ■「都市科学部 都市基盤学科」卒業生の採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「都市科学部 都市基盤学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた231企業のみ抽出

### ■「都市科学部 都市基盤学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

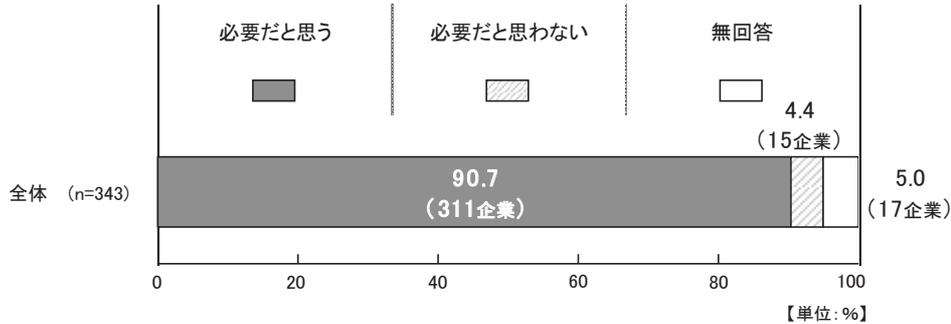
調査数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	人数は未確定	無回答	⇒	毎年の採用想定 (名)					
		割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数					割合 (%)	件数			
全体	231	21.2	49	5.6	13	1.3	3	1.3	3	1.7	4	68.0	157	0.9	2	296

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名、「人数は未確定」=1名を代入し合計値を算出

## 「都市科学部 環境リスク共生学科」の社会的必要性／卒業生の採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

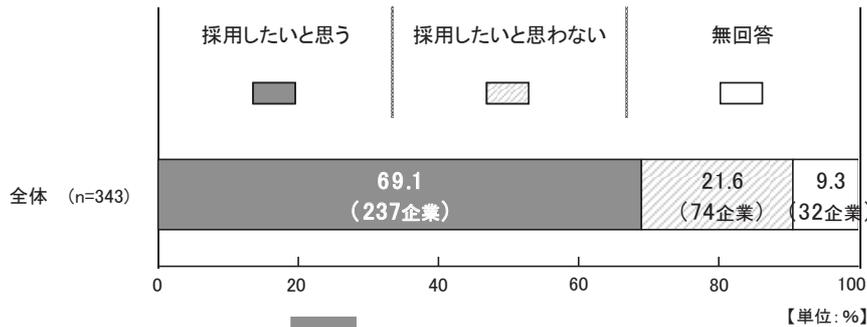
### ■「都市科学部 環境リスク共生学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



### ■「都市科学部 環境リスク共生学科」卒業生の採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思えますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「都市科学部 環境リスク共生学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた237企業のみ抽出

### ■「都市科学部 環境リスク共生学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

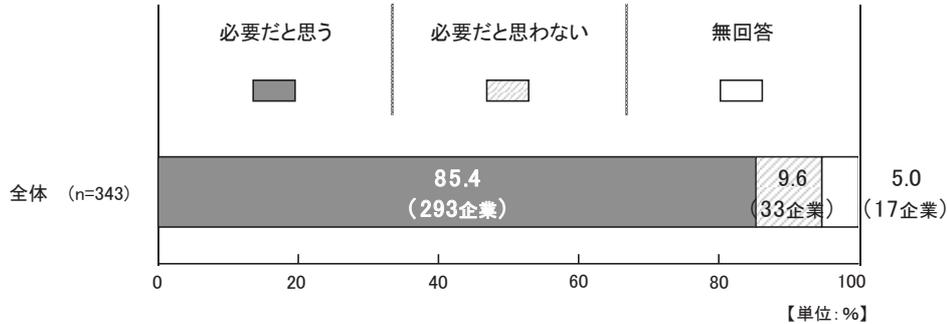
調査数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	人数は未確定	無回答	⇒	毎年の採用想定人数・計※(名)					
		割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数					割合 (%)	件数			
全体	237	23.2	55	1.7	4	0.4	1	0.4	1	1.7	4	71.3	169	1.3	3	280

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名、「人数は未確定」=1名を代入し合計値を算出

## 「都市科学部 都市共生学科」の社会的必要性／卒業生の採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

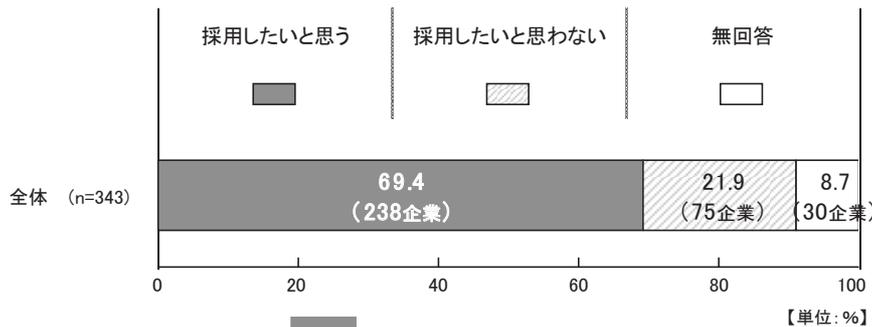
### ■「都市科学部 都市共生学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



### ■「都市科学部 都市共生学科」卒業生の採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思えますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「都市科学部 都市共生学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた238企業のみ抽出

### ■「都市科学部 都市共生学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

調査数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	人数は未確定	無回答	⇒	毎年の採用想定 (名)
		%	件	%	件	%	件				
238	%	23.1	1.7	0.8	0.0	0.4	1.3	71.0	1.7		273
	件	55	4	2	0	1	3	169	4		

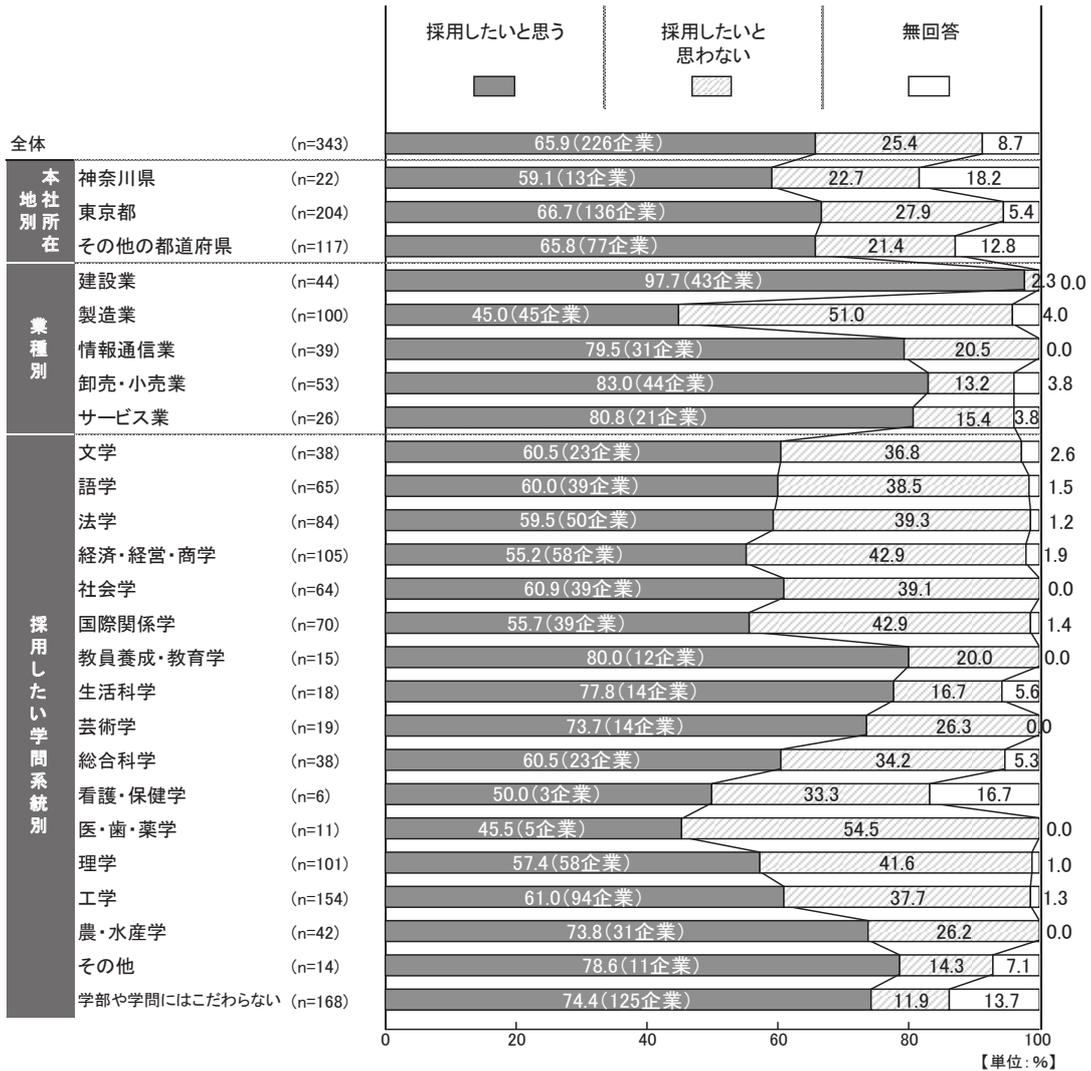
※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名、「人数は未確定」=1名を代入し合計値を算出

# 「都市科学部 建築学科」卒業生の採用意向 <属性別>

## ■「都市科学部 建築学科」卒業生の採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

<属性別>

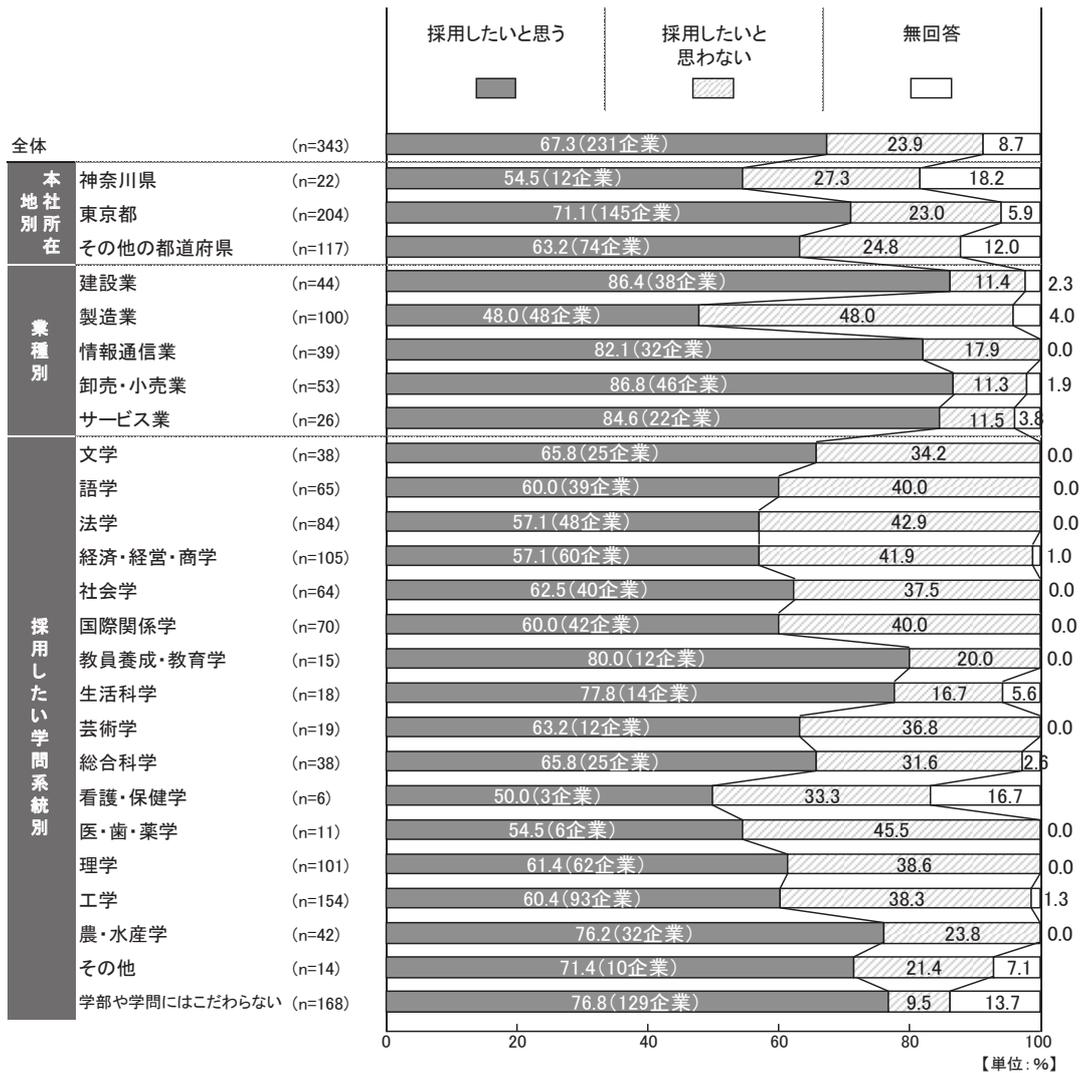


# 「都市科学部 都市基盤学科」卒業生の採用意向 <属性別>

## ■「都市科学部 都市基盤学科」卒業生の採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

<属性別>

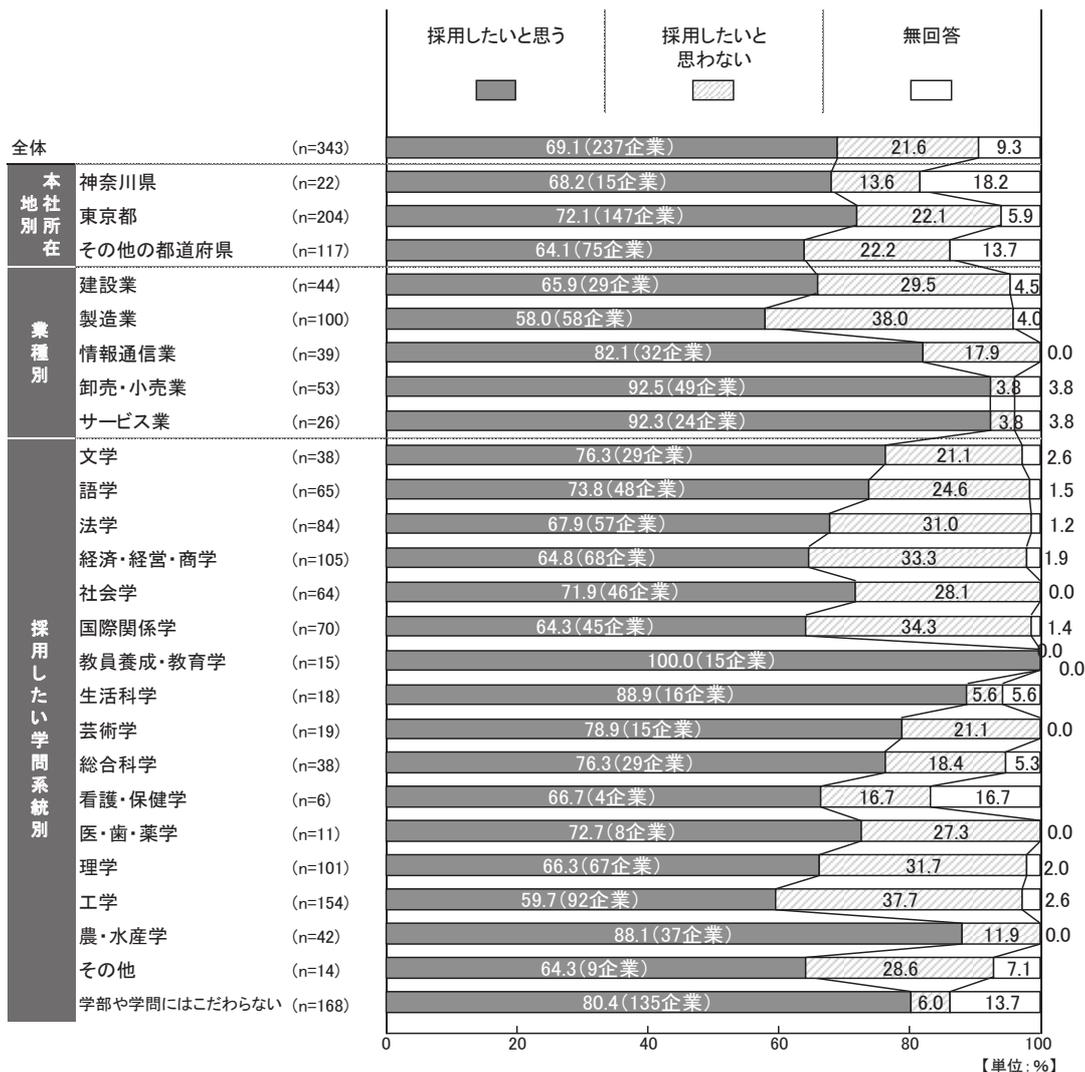


# 「都市科学部 環境リスク共生学科」卒業生の採用意向 ＜属性別＞

## ■「都市科学部 環境リスク共生学科」卒業生の採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

### ＜属性別＞

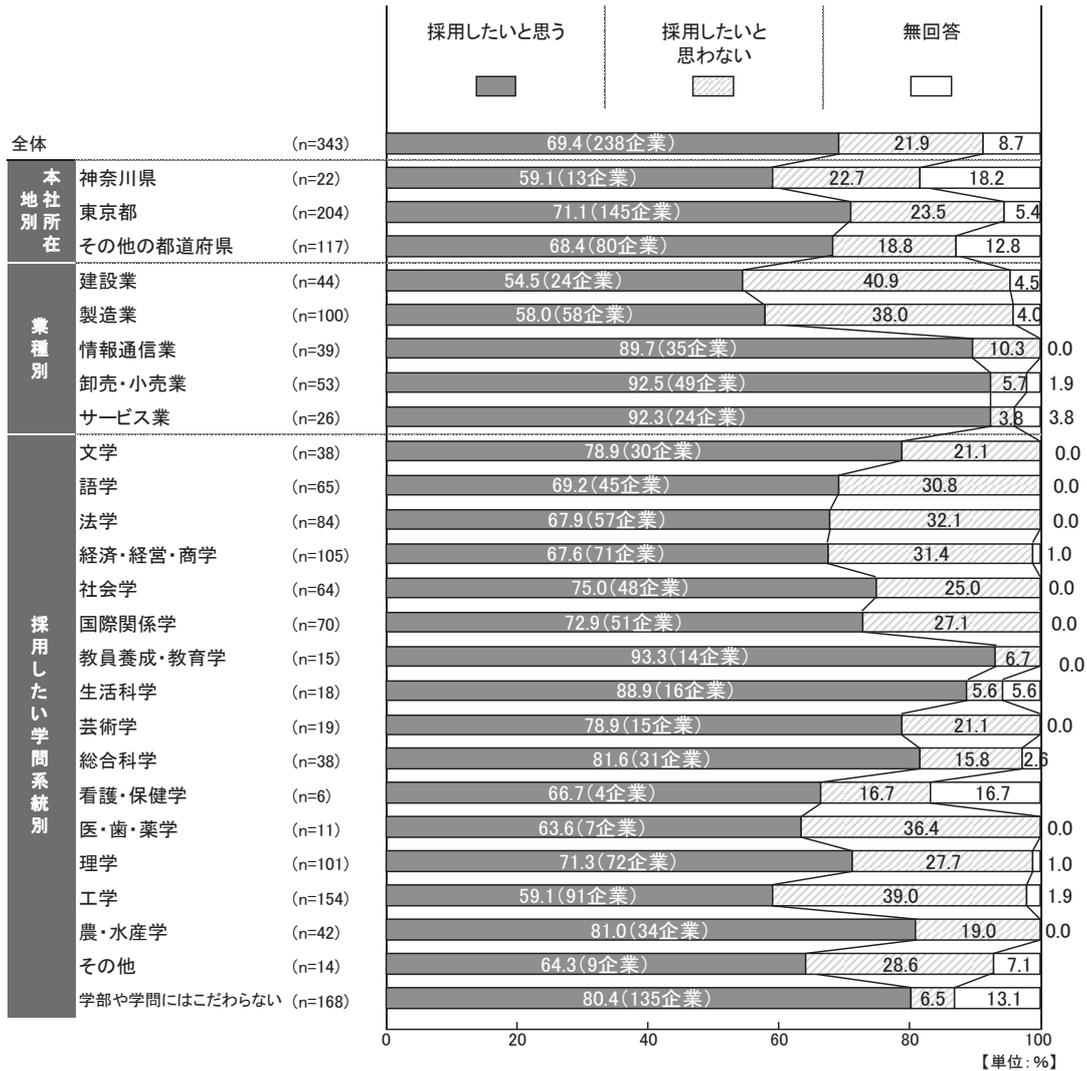


# 「都市科学部 都市共生学科」卒業生の採用意向 <属性別>

## ■「都市科学部 都市共生学科」卒業生の採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)の「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

<属性別>



## 資料 7 調査票様式【企業版】

# 企業対象 調査票

## 『横浜国立大学』に関するアンケート

横浜国立大学では「都市科学部」(仮称)の設置を構想しています。  
このアンケートは人事ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。  
アンケートは無記名で行い、皆様の個人情報を守ることをお約束いたします。  
※ このアンケートや同封した資料に記載されている「都市科学部」(仮称、設置構想中)に関する特色はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。  
(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はあるが、選考にかかわっていない
3. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
4. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地  都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- |                  |             |              |
|------------------|-------------|--------------|
| 1. 農・林・漁・鉱業      | 6. 運輸業      | 11. 医療・福祉    |
| 2. 建設業           | 7. 卸売・小売業   | 12. 複合サービス事業 |
| 3. 製造業           | 8. 金融・保険業   | 13. サービス業    |
| 4. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 9. 不動産業     | 14. その他      |
| 5. 情報通信業         | 10. 飲食店・宿泊業 | ( )          |

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- |               |                  |                    |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満      | 3. 100名～500名未満   | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上        |

Q5. 貴社・貴団体の1年あたりの平均的な正規社員採用数をお教えてください。過去3か年の状況をお考えください。

年平均  名程度

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- |          |        |            |
|----------|--------|------------|
| 1. 増やす   | 3. 減らす | 5. 採用予定なし  |
| 2. 昨年度並み | 4. 未定  | 6. 見送り(中止) |

次のページへ続く→

# 企業対象 調査票

Q7. 貴社・貴団体では、どのような系統の学部を卒業した人物を採用したいとお考えですか。  
(あてはまる番号すべてに○)

- |             |             |                   |
|-------------|-------------|-------------------|
| 1. 文学       | 7. 教員養成・教育学 | 13. 理学            |
| 2. 語学       | 8. 生活科学     | 14. 工学            |
| 3. 法学       | 9. 芸術学      | 15. 農・水産学         |
| 4. 経済・経営・商学 | 10. 総合科学    | 16. その他( )        |
| 5. 社会学      | 11. 看護・保健学  | 17. 学部や学問にはこだわらない |
| 6. 国際関係学    | 12. 医・歯・薬学  |                   |

横浜国立大学では新しく「都市科学部」(仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

Q8. 横浜国立大学「都市科学部」(仮称、設置構想中)、「建築学科」「都市基盤学科」「環境リスク共生学科」「都市共生学科」(すべて仮称、設置構想中)には以下のような特色があります。

貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
	例. ○○である。	1	2	3	4
都市科学部の特色	A. 最先進都市横浜をフィールドに総合的に学び、グローバルに活躍する人材を育てます。	1	2	3	4
	B. 工学系においても哲学、歴史、社会、文化などについての学びを重視し、4年間にわたって履修する。	1	2	3	4
	C. 年間を4学期に区分したカリキュラム構成で、在学中で半年から1年間、国内や海外の研究機関や企業で研修できる。	1	2	3	4
学科ごとの特色	建築学科 D. 伝統ある先進的な建築学教育を機軸に、総合的視点、批判的視点、グローバルな視点などを加えた学問領域を学ぶ。	1	2	3	4
	都市基盤学科 E. 伝統的な土木工学教育を機軸に、総合的視点、リスクの視点、グローバルの視点などを加えた学問領域を学ぶ。	1	2	3	4
	環境リスク共生学科 F. 豊かさやリスクのバランスがとれた持続可能な社会を実現するため、総合的視点で自然環境や人工環境、社会環境のリスクを学ぶ。	1	2	3	4
	都市共生学科 G. 多様な価値観からなる都市社会のコミュニティを支える人材となるため、人文社会科学の視点を組み入れたグローバルかつローカルな都市共生学を学ぶ。	1	2	3	4



## 資料8 企業・地方自治体等からのヒアリング社会ニーズ調査

## 企業・地方自治体等からのヒアリング社会ニーズ調査

### 【都市社会共生学科】

- ・「異なる文化、宗教、価値観を持つ人々が集中する「都市」では、IT発信の仕方次第では、対立や軋轢を引き起こしかねない。だからこそ、都市創生を考える時、多様な文化を理解できる人材育成が必要。そのような素養を備えた人材育成がリスク回避につながり、仕事のスピーディー化に貢献できる」(広告業)
- ・「異なる文化の中で育った人間をどう捉え、彼らとどう対峙するかという問題をめぐる思考力と解決力が重要」(コンサルティング)
- ・「都市に根差す文化的な商業施設を開発・運営する企業として、都市社会が複雑化し、一つの専門知だけでは問題解決が難しくなっている現代において、都市社会を多角的な視点から見つめ、その問題を様々な角度から捉えられる方は、既存の組織に変革をもたらす“人財”として有用であると考えます」(小売業)
- ・「これからの開発には、都市環境や建築、コミュニティに関する深い理解が不可欠だと考えている」(建築業)
- ・「各業界の垣根を超え、それぞれの専門性を“つなぐ専門家”が必要で、その“つながり”から生まれるイノベーションが、これからの日本の産業に不可欠」(コンサルティング)
- ・「都市そのものが引き起こす課題をどのように解決していくのかは大切であるが、大学の役割は対症療法的なソリューションを出すことでもない。法や哲学などのリベラルアーツを少しでも深く学んでほしい」(NPO 法人)
- ・「理系から提供される街作り・都市計画系の科目についても、基本は勉強しておくべき」(地方自治体)
- ・「大事なのはリベラルアーツの教養。歴史、世界観、国家観、ぶれない価値観など幅広い「常識」が極めて重要。それがしっかりしていないと多面的な問題に直面した際、その問題を解決し、また新たな価値をクリエイトできない」(卸売業)
- ・「文化マネジメントにおいて経営的能力に長けた人が出てきてほしいという思いがある」(NPO 法人)
- ・「文科系でこのようなものをやることに意味がある。なぜならば理詰めではないところからアイデアがでてくるからである。イノベーションを起こすためにはグローバルとローカルの視点を有した文科系に頼ることが重要」(広告業)
- ・「『グローバル⇄ローカル』のように、双方向で行き来できるような教育内容が好ましい」(コンサルティング)
- ・「都市に関わる様々なステークホルダーと実際に協働してプロジェクトを実施する、或いは、インターンシップを実施することで、都市がいかに多様な人々によって作られている

のか／様々な人々が関わっているのかということ、学生の方々が実体験できる機会があると、学びがより一層深いものになる」(小売業)

- ・「専門実践能力をつけるためにはどれだけ現場に入りこめるかが重要になる。継続的に社会とつながる場としてインターン・「地域連携科目」・ゼミなどを通じて上級生が下級生をコミュニティの現場で継続的に指導するような仕組みも必要」(コンサルティング)
- ・「モノの流れと社会の仕組みをフィールドリサーチなど、自らの目と足で体感すること。そのうえで、“エコ”だけではない環境対策、これからの産業・生活とこれからの環境共生を提案する」(コンサルティング)

## 【建築学科】

- ・グローバル化への適応、リスクマネジメント能力は今後更に求められる要素となる。(建設業)
- ・複雑化する都市の諸問題に対して、工学的な知識のみならず、多面的な視点で解決できる人材が期待できる。(地方自治体)
- ・理工学と人文社会系を融合した教育、人材育成は大いに賛同。これまで建築界にイノベーター的な人材を輩出してきたことがさらに強化される。(建設業)
- ・広い視野を持った人材を育成できる期待がある。社会的課題を理解し、生活・社会・安全や、歴史・文化・環境に配慮し、空間に新しい価値を見出す人材を求めている。(建設業)
- ・大学教育以外にもさまざまな問題があるので、大学カリキュラムとしてどこまでやれるかについては難しい点もあると思われるが、国際的視野を広げることのできるような教育が望ましい。(建設業)
- ・建築を創る仕事は単にデザインだけでなく様々な知識や要望を立体的に考察し統合し、様々な関係者との交渉をまとめていくコーディネーター的な能力が必要。(地方自治体)
- ・イノベーションを起こすには、実践的なセンスが必要不可欠である。座学だけではだめで、アクティブラーニングを重視してほしい。(地方自治体)
- ・法律(地権者とのトラブル)、経済(資金調達の実現、投資家への理解獲得)、施工(新たな技術・手法の採用)など。ひとつの共通テーマを通して、関わる専門分野がどのようなものであるかを学ぶ機会があるのが重要。(建設業)
- ・経営マインドを身につけさせることが重要。現代都市社会では、事業性が必須なので、大学では、都市経営についてきちんと学んで欲しい。(情報・通信業)
- ・どの専攻に進むとしても、「過去の歴史から学ぶ」ことは重要である。国内外で文化財保存を指導助言・技術移転を行う場面では、専門性の研鑽とあわせて「柔軟な思考力・対応力」が強く求められる。インターンシップや社会活動・ボランティア活動や、国際的視野を持つ機会充実(単位化)が期待される。(独立行政法人)

- ・大学教育としては自分の専門をしっかり確立していることも重要。(建設業)
- ・そもそも現代社会ではリスクコミュニケーションが必要とされている。その点でリスクマネジメントの概念を身につけておくことは基本的に重要。リスクマネジメントにおいては、全体のバランスを理解したトレードオフの概念を持っていることが必要。(情報・通信業)
- ・マネジメント能力のある人材を輩出してほしい。異なる環境の者が集まる部活動のような中で培った方がよい。(建設業)
- ・ひとつの共通テーマを通して、さまざまに関わる専門分野がどのようなものであるかを学ぶものがあるとよい。たとえば、横浜のまちづくり事例をテーマとして取り上げ、これに関わる様々な専門(個別の建築計画(意匠・構造・設備)や都市計画を行う立場、実施設計・施工の立場、行政側の立場、企画やマネジメントの立場、スポンサーの立場)が関わって実現されるという事例を通して多くの役割を理解してもらうもの。(建設業)

## 【都市基盤学科】

- ・都市の存在が増している。気候変動、環境、災害リスクが都市に集中し、都市のマネジメントが課題になっている。都市計画プランナーからエンジニアリングのインフラ整備、並行的にコミュニティマネジメント・都市戦略が立てられるなどの全体が見える人材が必要である(独立行政法人)
- ・横浜を例にとると、「リスク」に崖の存在とその災害・居住地・生活へのリスクを考慮してほしい(地方自治体)。
- ・今後日本の人口が減少していく中で、海外に展開しないとせっかく築いた(インフラ)技術が廃れてしまう。そうした大局的・長期的な視点から日本の進むべき道を論ずることができる人材を求める(重工業)。
- ・文化や価値観は国ごとに異なるので、欧米や日本でうまく機能しているシステムをそのまま持っていてもうまくいかず、その地域が何を求めているかをまず知ることから始める必要があり、その地域の価値観を理解し、ニーズを把握できる人材を求める(重工業)。
- ・インフラ整備を前提に都市づくりで社会要素をバランスよくまとめるには文系的な思考を持った理工人材が必須になる(独立行政法人)
- ・土木工学の基礎学理はしっかりと学んでもらいたい(建設業清水建設(株))。
- ・(巨大地震やゲリラ豪雨などの)自然災害等については、フィールドワーク等と結びつけてどんどんとやっていただきたい(建設業)。
- ・これからの都市防災にはリモートセンシングやGISが有用で、また新興国では排水・廃棄物の視点が必要不可欠である(独立行政法人)
- ・歴史、文化の視点と、その連続性、形成史をよく理解した街づくりが重要と考える。それ

らの視点をカリキュラムに活かしてほしい（地方自治体）。

- ・既に基盤施設の整った都市とこれから都市基盤を整備していく都市ではアプローチが異なるはずで、その違いを理解し状況にあわせて柔軟にアプローチを変えることができる思考を身に付けてほしい（重工業）
- ・インフラ輸出の際にその都市の要求を正しくつかみシステムに反映できるために、新興国などの文化などをカリキュラムに取り入れてほしい（重工業）

## 【環境リスク共生学科】

- ・「今後、様々な相対するリスクを比較分析して最適な方法を考える方法やその際のステークホルダー同士の調整の方法などの開発が必要になると思います。特に、様々なカテゴリーの異なる対象同士のリスクや価値を総合的に比較分析する手法の開発が求められていると思います。考え方として、多様性オフセットや環境経済評価、ゲーム理論を基づく科学的な合意形成手法の開発などの研究やそのような分析評価を手法を社会人になって、仕事に活用できるような人材の育成がより一層求められるようになって感じています」（財団法人）
- ・「理系分野を学んだ上で社会に対してアウトプットする能力を身につけた人材に期待」（地方自治体）
- ・「生物多様性保全、生態リスクへの対処などにおいて、複雑な系の要点を理解し、工学的なセンスをもってシンプルな分析ができることはとても重要」（国立研究開発法人）
- ・「我々行政が扱う課題は、単体で課題が発現されるものは非常に少なく、都市環境の中の様々な要因が絡み合い課題となって発現しております。このような課題を解決する基本的な姿勢として、一つ一つの要因の理解に努めることや、幅広い視野を持った人材は有用であると考えためです」（地方自治体）
- ・「ヒトと都市、生態系、地球をつなぐスキルを有し、様々な課題に対して適切な解決策を用意できる教育に期待」（建設業）
- ・「フィールド科学と GIS（地理情報システム）などのコンピュータサイエンスを組み合わせた教育が必要」（製造業）
- ・「リスクを科学的にとらえる数理的思考と、ヒト・社会と対話できる社会的思考力を合わせ持つ人材は世の中にまだ少なく貴重」（みずほ情報総研株式会社）
- ・「多様な関係者の意見をまとめあげる「デジジョンメイキング」の力や、複雑な議論を積極的にリードする「ファシリテーター」としての力は不可欠なのではないかと個人的に感じています」（地方自治体）
- ・「問題が起こっている現場で対象と人に向き合い、問題解決のために大学で何を学べばいいのか学生自身に考えてもらう機会があるといいと思います」（国立研究開発法人）

## 資料9 要望書(神奈川県、YGEP)

## 横浜国立大学教育組織改編について

横浜国立大学は、開学当初から本県をはじめ県内市町村及び産業界等と連携し、優れた教育研究活動や事業展開に取り組むなど、本県を代表する主要な教育研究機関のひとつです。

現在、同大学では、「グローバル化」、「イノベーション」、「大都市」の3つの社会的必要性に関わる諸課題を幅広く学ぶことができる、ワンキャンパスの優位性を活かした魅力ある大学づくりを目指し、教育組織の改編を進めています。

現在、県では神奈川の成長力を生かした神奈川らしい成長産業の創出などを通じて、経済のエンジンを回すことにより、県内にしごとをつくり、安定した雇用を生み出すことを目指しています。

そのため、昨年7月に策定した県の総合計画である「かながわグランドデザイン第2期実施計画」に基づき、企業や求職者のニーズに対応した産業を支える人材の育成、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成などに取り組んでいます。

併せてイノベーションの創出につながる競争力の高い企業の育成などに取り組み、産業集積をさらに促進することにより、県内経済の活性化を図る取り組みを行っています。

また、地域の活力を維持し、神奈川が引き続き発展していくため、今後人口が減少する局面にあっても、持続可能な魅力あるまちづくりを進めるなど、活力と魅力あふれるまちづくりの実現を目指しています。

同大学の今回の新学部設置等は、21世紀のグローバル新時代に求められる、広い専門性を持った実践的人材を育成するものであり、本県の取り組みを実現するために必要な人材の育成であると捉えております。

そこで、本県といたしましては、これまで以上に、横浜国立大学が本県の重要な教育研究機関として、多くの優れた人材を育成・輩出し、県内経済・産業の活性化に大いに貢献することを期待することから、貴省におかれましても、同大学の教育組織改編の趣旨についてご理解賜り、よろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

平成 28 年 3 月 1 日

文部科学大臣 馳 浩 殿

神奈川県知事 黒岩 祐治





**UNIVERSIDAD NIHON GAKKO**

Fernando de la Mora, 22 de febrero de 2016.

Señor

Hiroshi Hase

Ministerio de Educación, Cultura, Deportes, Ciencia y Tecnología del Japón

La Universidad Nihon Gakko se dirige a Usted a fin de saludarle atentamente al tiempo de solicitar la apertura del programa de becas YGEP – N2, en la Universidad Nacional de Yokohama (YNU), con el objetivo de fortalecer el vínculo interinstitucional y cultural de los estudiantes, en el marco del convenio entre YNU y la UNG.

La Universidad Nihon Gakko es una institución de Educación Superior de la República del Paraguay reconocida por Ley de la Nación N° 3688/08 con el lema "Gambatte Kudasai", cuyos fundadores son ex becarios de la Universidad Nacional de Yokohama Japón, experiencia motivadora para difundir la cultura japonesa a través de una institución educativa, tales como enseñanza del idioma japonés, entre otros.

Cuenta con 5 facultades: Facultad de Humanidades y Ciencias de la Educación, Facultad de Derecho y Ciencias Sociales, Facultad de Ciencias Empresariales, Facultad de Ciencias y Tecnología y Facultad de Ciencias de la Salud.

En el marco de la internacionalización, la Universidad Nihon Gakko tiene convenios con diferentes universidades del Mercosur, Europa y Asia, En este contexto se destaca el gran interés de fomentar la vinculación de los estudiantes y académicos con sus pares de diferentes lugares del mundo.

Atentamente.



  
Dr. Dionisio Ortega  
Rector



## New Mongol Academy

43 Manlaibaatar Damidinsuren Street, 25<sup>th</sup> Knoroo, 13th microdistrict,  
Bayanzurkh district Ulaanbaatar MONGOLIA  
Phone +976-75777799 FAX +976-11-461122  
Website www.shinemongol.edu.mn

横浜国立大学 御中

### 要 望 書

拝啓 平素から、本校の教育活動にご理解をいただき、厚く御礼を申し上げます。また、2016 理工学部  
の渡日前入試を利用し、小中高一貫学校の卒業生であり、工科大学の 1 年生に進学した学生が合格し、  
2016 年 4 月から入学できることもうれしく思います。

この渡日前入試について、平成 29 年 4 月入学については、日本語能力試験 N1 レベルだけでなく N2  
レベルも受け入れる予定と聞き、新モンゴル学園として期待をしています。一般に、N1 レベルにまで到  
達するには 3000 時間以上必要と言われてはいますが、中等教育機関では学習時間の確保は難しいのが現状  
です。新モンゴル学園の付属校である小中高一貫学校では中学校から日本語教育を行っており、選択科  
目や夏期講習などを開講し学習時間を確保することで、高校卒業時（卒業年の年末までに）N2 と日本留  
学試験（EJU）の日本語科目で 200-250 点が取得できるようなカリキュラムを組んでいます（授業時間  
数は別紙参照）。N2 レベルの学生の受け入れが始まれば、多くの卒業生にチャンスが広がることになり  
ます。

系列校である新モンゴル工科大学と交流協定がある横浜国立大学は、本学園でも認知度が高く留学先  
として名前の挙がる学校です。N2 レベル学生を受け入れる私費留学生プログラムは、日本で高度な知識  
や技術を学びモンゴルの発展に貢献したいという考えを持つ学生が多い本校にとって、大きな期待を寄  
せています。

以上のような理由から、受け入れレベルの拡大をお願い申し上げます。

敬具



理事長

ジャンチブ・ガルバドラッハ